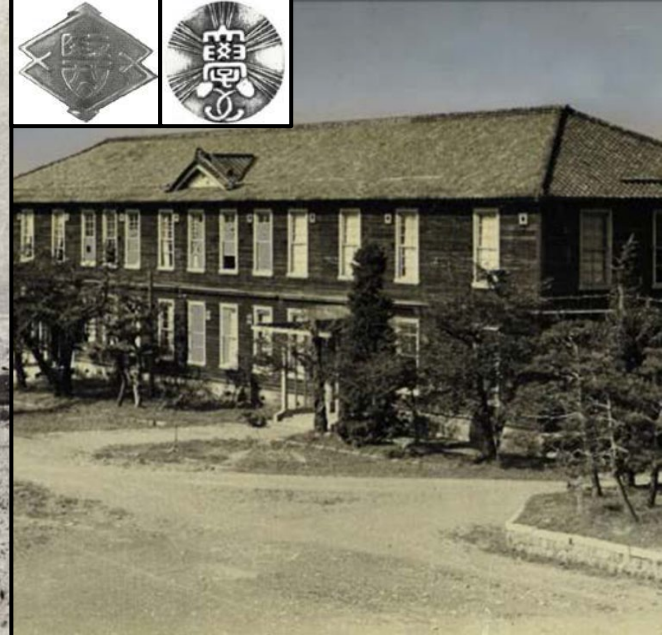
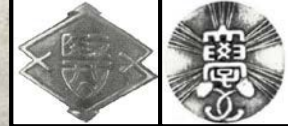
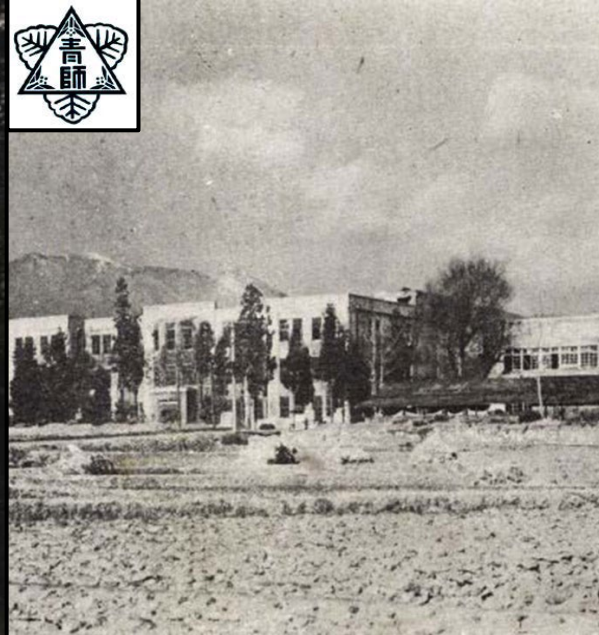


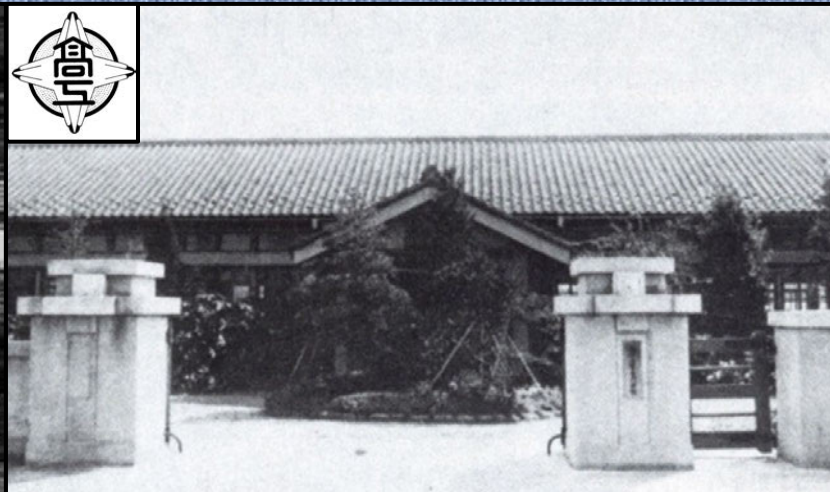


大学史資料センター企画展

Web版

信州大学のなりたち

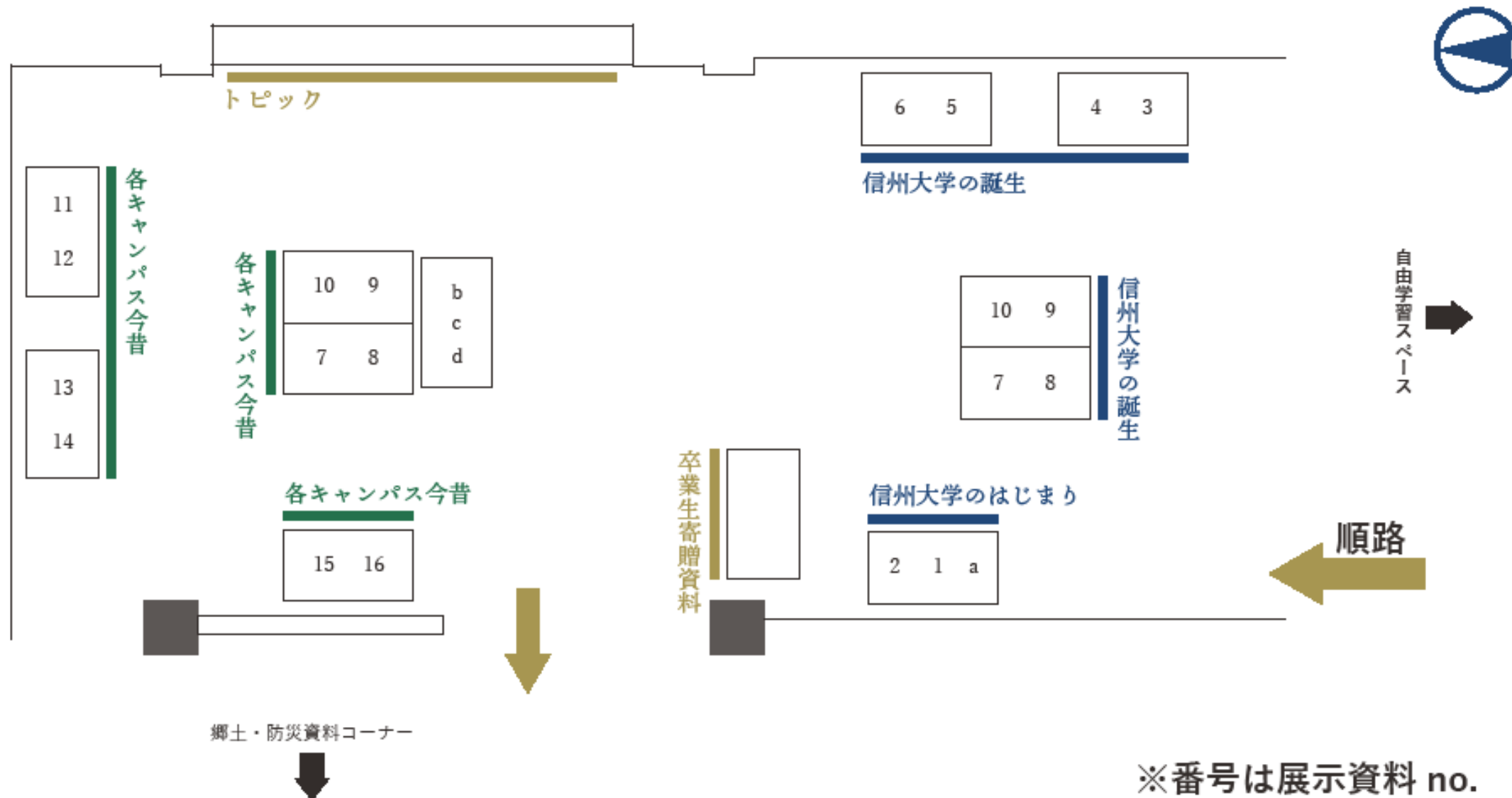
— 創立を夢見た明治から現在までの歩み —



展示構成

● はじめに	p. 4
● 信州大学のはじまり	p. 6
● 信州大学の誕生	p. 15
● キャンパス今昔	p. 33
松本キャンパス	p. 35
長野（教育）キャンパス	p. 53
長野（工学）キャンパス	p. 60
伊那キャンパス	p. 67
上田キャンパス	p. 75
● トピック：信州大学今昔	p. 87
● 寄贈資料の紹介（信州大学大学史資料センターについて）	p. 96

展示スペース見取り図 (中央図書館 1F 展示コーナー：2021年度展示)



はじめに

はじめに

2019年、本学は創立70周年を迎えました。70年間の歴史は、70年間の闘争と成長を意味し、開校以来、大学設置運動を経て、開学への歩みを辿りました。この歴史は、開学に至る経緯に加え、その発展した本学の各学部にキャンパスの輪郭を形成し、本学の成長を支える礎石にまで育ってまいりました。

2020年10月

信州大学学芸学部センター
西館 1F

信州大学キャンパスマップ



信州大学のはじまり

信州大学の前身は、明治6年(1873)に
信州府立第一中学校・長野県立第一中学校
に由来する。以降、学校制度の整備
の中で前身校が設立された。沿革教育
機関の発展は、明治30年代以降顕著
であり、大学設置をめざす運動が活
発化した。戦後には、戦時体制下でも

信州大学のはじまり



各学部の前身校



順 路



展示室をお楽しみください。

はじめに

信州大学キャンパスマップ



信州大学のはじまり

信州大学のはじまり

信州大学の起源は、1873（明治6）年の筑摩県師範講習所・長野県師範講習所にさかのぼる。以後、学校制度の整備の中で前身校が設立された。高等教育機関の設置は、明治30年代以降機運が高まり、大学設置をめざす運動がすすめられたが、戦前には実現できなかった。



高等教育機関設置への歩み

明治三十二年四月三日



辻新次
龍野周一郎
小山久之助
小川平吉
降旗元太郎
山田莊左衛門
他12名

六月



外山 正一

於 信濃教育会
第14回総会講演会

「諸君は進んで北信八州の地方に一つの大学を起こそうと云う考えを持たれてもよからうと吾輩は思うのである。高校の誘致とともに大学も考えよ」
（『信濃教育会雑誌』155）



長野県への高等学校
誘致運動
「意見書」提出

明治四十一年十一月



保科 百助
（五無斎）

「仮に五無斎をして長野県知事たらしめば、（中略）桔梗が原高等学校、やがては信州大学設立など洒落るものに御座候」
（『信濃公論』第4号）

大正四年十一月



村松 民治郎
（編輯主任）



伊藤 長七



伊藤 「信濃大学創設の国論を樹立すべし」
村松 「本県教育の精神と信州大学」

大正五年五月



平林 廣人



「信州大学の一步として夏季大学の開設を促す」

大正八年四月

松本高等学校設立 ※1

大正十二年六月

師範大学設立運動

大正十四年六月

信州帝国大学設立運動

昭和三年十月

信州大学設置調査委員会の設置

昭和十五年四月

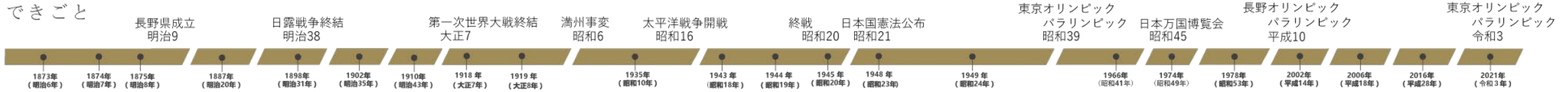
信州大学設立促進に関する委員会



※1

戦時体制により大学設立運動の中断へ

できごと



信州大学

前身校から現在まで



松本高等学校
(大8.4)



松本医学専門学校
(昭和19.3)

松本医科大学
(昭和23.2)

医学部
(昭和24.6)

附属病院
(昭和24.6)

教育学部
(昭和24.6)

工学部
(昭和24.6)

農学部
(昭和24.6)

繊維学部
(昭和24.6)

教育システム
研究開発センター
(平成7.4)

高等教育
システムセンター
(平成15.4)

全学教育機構
(平成18.4)

筑摩県
師範講習所
(昭和6.5)

筑摩県
師範学校
(昭和7.10)

長野県師範講習所
(昭和6.8)

長野県師範学校
(昭和8.12)

長野県尋常
師範学校
(昭和19.9)

長野県師範学校
(昭和31.4)

松本女子師範学校
(昭和35.4)

長野県実業補習学校
教員養成所
(大7.4)

長野県立青年学校
教員養成所
(昭和10.4)

長野青年師範学校
(昭和19.4)

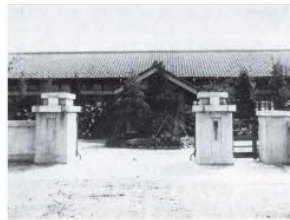
長野高等工業学校
(昭和18.3)

長野工業専門学校
(昭和19.4)

長野県立農林専門学校
(昭和20.2)

上田蚕糸専門学校
(昭和43.3)

上田繊維専門学校
(昭和19.4)



各学部 の前身校 1



松本高等学校



現在の学部 | 人文・経法・理

設立 | 1919（大正8）年

1918（大正7）年の改正高等学校令に基づき、翌年に全国9番目の官立（国立）旧制高等学校として設立した。文科・理科よりなる修業年限3年の高等科を設置し、学生寮として思誠寮（しせいりょう）が建てられた。人文学部・経済学部・理学部の前身校である。旧校舎本館・講堂は重要文化財。



長野師範学校



現在の学部 | 教育

設立 | 1873（明治6）年

1873（明治6）年、小学校教員養成のため、旧長野県と筑摩県に設けられた師範講習所は、翌年、筑摩県師範学校、翌々年長野県師範学校となり、1876年（明治9）、両県合併にともない長野県師範学校になった。長い歴史の中で多くの教育者を送り出している。



長野青年師範学校



現在の学部 | 教育

設立 | 1918（大正7）年

1918（大正7）年、小学校を卒業し工業や農業に従事する勤労青年に、職業教育・普通教育・軍事教育を行なうための教員を養成する目的で、長野県実業補習学校教員養成所が設けられた。1944（昭和19）年、師範学校教育令の改正で長野青年師範学校になったのち、信州大学が創設されるに伴い、新制大学に包括され教育学部に移行した。



松本医科大学・松本医学専門学校



現在の学部 | 医

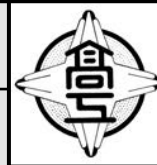
設立 | 1944（昭和19）年

1944（昭和19）年、第二次世界大戦下における医師不足を補うため、官立松本医学専門学校が開校し、翌々年に旧陸軍歩兵第五十連隊跡地（現・松本キャンパス）に移転した。1948（昭和23）年には、大学令に戻づく大学（旧制大学）として官立松本医科大学が設置され、いずれも医学部の母体として、信州大学設置後もしばらく存続した。



各学部
の前身校
2

長野工業専門学校



現在の学部 | 工

設立 | 1943（昭和18）年

1943（昭和18）年、戦時下における技術者の養成と工業教育の必要性が高まる中、長野高等工業学校が設置された。翌年、長野工業専門学校に改組し、長野工業試験場（長野市若里）の建物を校舎とした。戦後の日本再生を担い、最先端技術を研究し未来を牽引する人材を育てる基になっている。



長野県立農林専門学校



現在の学部 | 農

設立 | 1945（昭和20）年

1945（昭和20）年に設置された長野県立農林専門学校は、高度な農学教育を目的とし、上伊那農業学校（現・上伊那農業高等学校）に併設されて開校した。全国有数の農業・林業県である長野県に戦時下における専門機関が必要であると考えられていた。現在農学部のある場所に校舎などの施設が整えられて移転したのは1947年である。



上田繊維専門学校

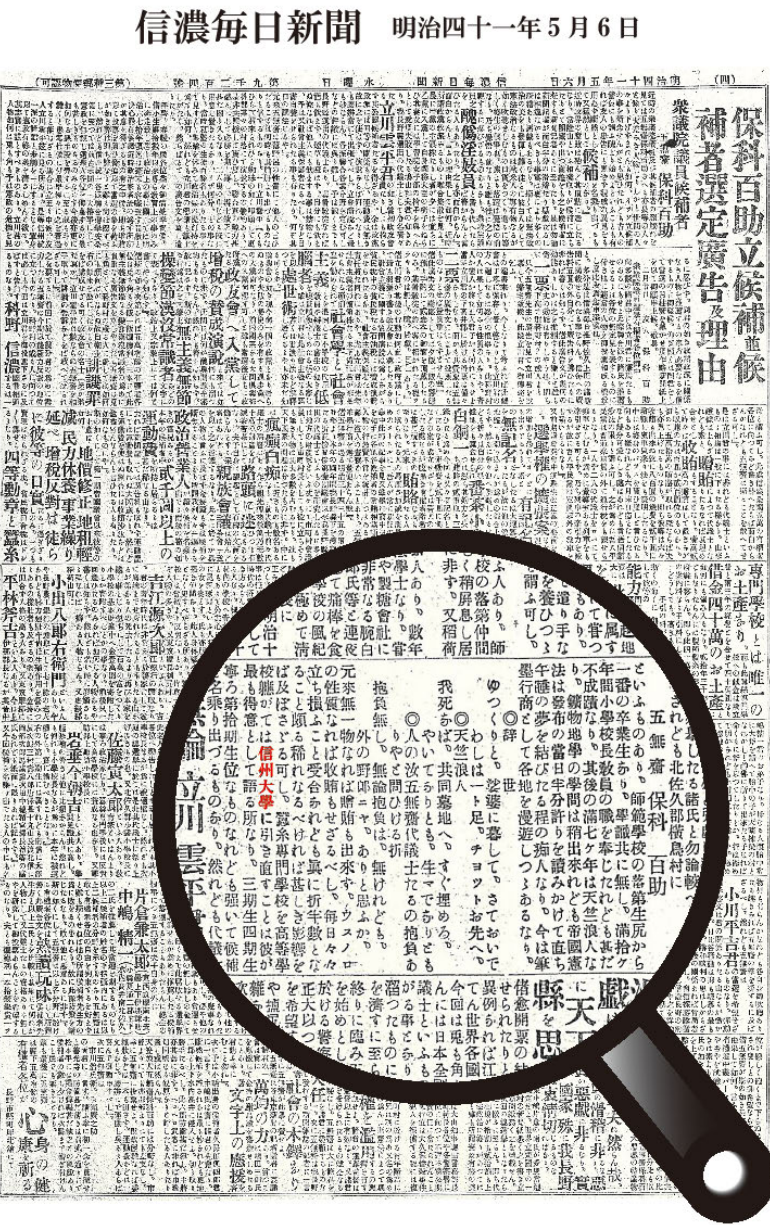


現在の学部 | 繊維

設立 | 1910（明治43）年

1910（明治43）年に上田蚕糸専門学校が設立、官立初の蚕糸専門学校であった。1944（昭和19）年に上田繊維専門学校に改称。元々蚕糸業が盛んな地であったこと、交通の便の良さから上田の地が選ばれた。当時の専門学校は総合大学に対する専科大学の位置付けであった。繊維学部は現在、ファイバー工学の国際的教育研究拠点として認知されている。

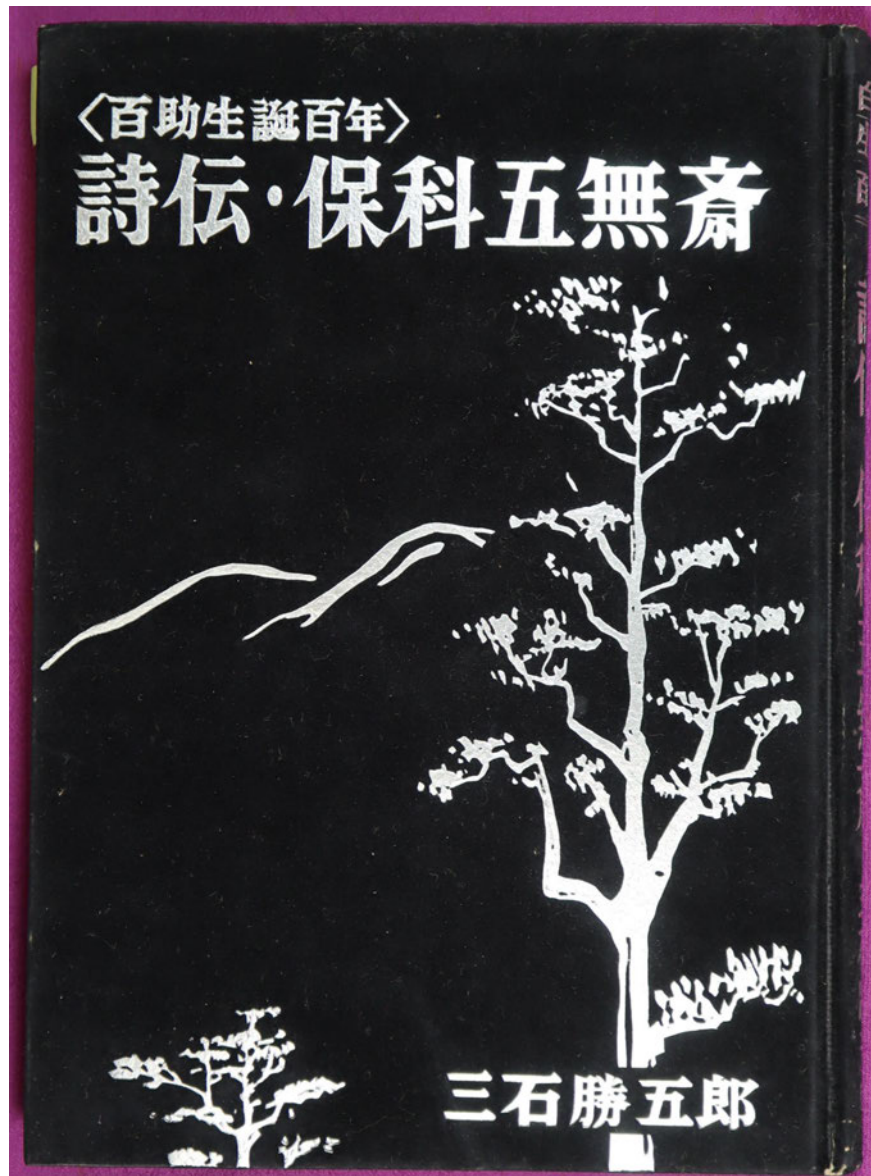
展示資料：パネル a



保科百助立候補並びに候補者選定広告及び理由

1908（明治41）年5月6日
信濃毎日新聞

長野県師範学校出身の教育者保科百助（五無斎）は、その晩年、長野県に図書館、博物館、高等学校、大学などを設置すべきだと主張し、1908（明治41）年5月15日実施の第10回衆議院議員選挙に立候補した。その公約のなかに蚕糸専門学校を高等学校にし、やがては「信州大学」に発展させるという持論を記している。これが年月日が明確な「信州大学」の初見である。



詩 信州大学

1907（明治40）年頃

個人蔵

長野県師範学校出身の教育者保科百助（五無斎）は、その晩年、長野県に図書館、博物館、高等学校、大学などを設置すべきだと主張した。1907（明治40）年には信濃図書館の開館を実現し、さらに高等学校、大学の設立を主張した。この詩は「筆屋さん」と題された30編のひとつ。信州大学を桔梗が原（現在の塩尻市）に建てようとする願いをうたっている。（出典：三石勝五郎『詩伝 保科五斎』）

村松民次郎「本県教育の精神の信州大学」



1915（大正4）年
中央図書館 蔵

『信濃教育』編集主任の村松が、長野県に大学を設置する必要性を論じた論文。すでに「信州大学」の名前がみえる。
（出典：『信濃教育』349号）

※編輯主任＝村松民次郎

信州大学の誕生

信州大学の誕生

1948（昭和23）年7月、信州大学の設立が申請され、文部省の大学設置委員会の審査を通過、1949（昭和24）年5月31日、国立学校設置法により新制“信州大学”が発足した。

新制国立大学へのあゆみ

1947

昭和22

教育基本法

戦後の新秩序の教育

高等教育に求められるもの

個人の尊重、学問の自由、

教育の機会均等、男女共学、教養重視…

1947

昭和22

学校教育法

新学校制度の開始

(4年または5年制新制大学を昭和24年から設置)

新制(国立)
大学の
枠組の議論

田中 文部大臣の大学区構想

(旧制大学の枠組みを残す)

↓ GIC が拒否

対立

CIC の大学地方移譲構想

(高等教育の地方分権化)

↓ 日本国内での抵抗

大学の枠組みの流動化 — 単科、総合、連合、協定など

全国の新制(国立)大学誘致・昇格運動の高まり

↓ 長野県内での大学設立の動きが活発化

(実業教育大学、農科大学、繊維大学、信州総合大学…)

1948

昭和23・6月

新制国立大学に関する十一原則

1 府県1 大学設置の方針

↓ 既設大学を中核として、高等学校、師範学校、専門学校を統合する形で調整される (長野県高等学校長会議等)

一部を除き、各地の単科大学設置運動が終息へ

次ページに内容を記載しています

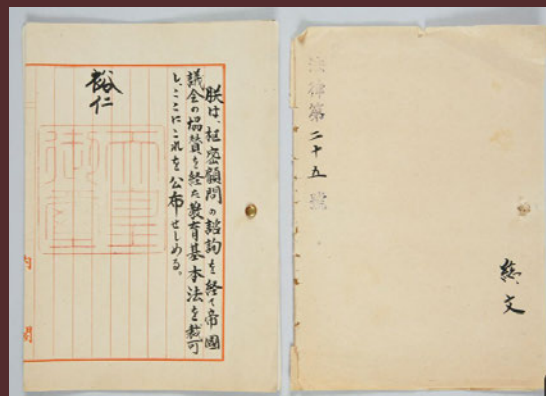
1949

昭和24
5月31日
公布・施行

国立学校設置法

新制国立大学

69 校が誕生



新制国立大学の設置に関する十一原則

(一九四八(昭和二十三年六月)

- (一) 国立大学は、特別の地域（北海道、東京、愛知、大阪、京都、福岡）を除き、同一地域にある官立学校はこれを合併して一大学とし、一府県一大学の実現を図る。
- (二) 国立大学における学部または分校は、他の府県にまたがらないものとする。
- (三) 各都道府県には必ず教養および教職に関する学部もしくは部を置く。
- (四) 国立大学の組織・施設等は、さしあたり現在の学校の組織・施設を基本として編成し、逐年充実を図る。
- (五) 女子教育振興のために、特に国立女子大学を東西二か所に設置する。
- (六) 国立大学は、別科のほか、に当分教員養成に関して二年または三年の修業をもつて義務教育の教員が養成される課程を置くことができる。
- (七) 都道府県および市において、公立の学校を国立大学の一部として合併したい希望がある場合には、所要の経費等について、地方当局と協議して定める。
- (八) **大学の名称は、原則として、都道府県名を用いるが、**その大学および地方の希望によっては、他の名称を用いることができる。
- (九) 国立大学の教員は、これを編成する学校が推薦した者の中から大学設置委員会の審査を経て選定する。
- (十) 国立大学は、原則として、第一学年から発足する。
- (十一) 国立大学への転換の具体的計画については、文部省はできるだけ地方および学校の意見を尊重してこれを定める。意見が一致しないか、または転換の条件が整わない場合には、学校教育法第九十八条の規定により、当分の間存続することができる。

国立学校設置法の附表

新制国立大学の一覧のなかに、信州大学がみえる。所在の県、設置予定の学部、母体となった前身校が記される。繊維学部の母体となった上田繊維専門学校は、5月12日の大学設置審議会で、単科大学昇格が認められなかったため、信州大学繊維学部として合流した。

[illegible]

信州大学

長野縣

農学部
工学部
医学部
教育学部
文理学部

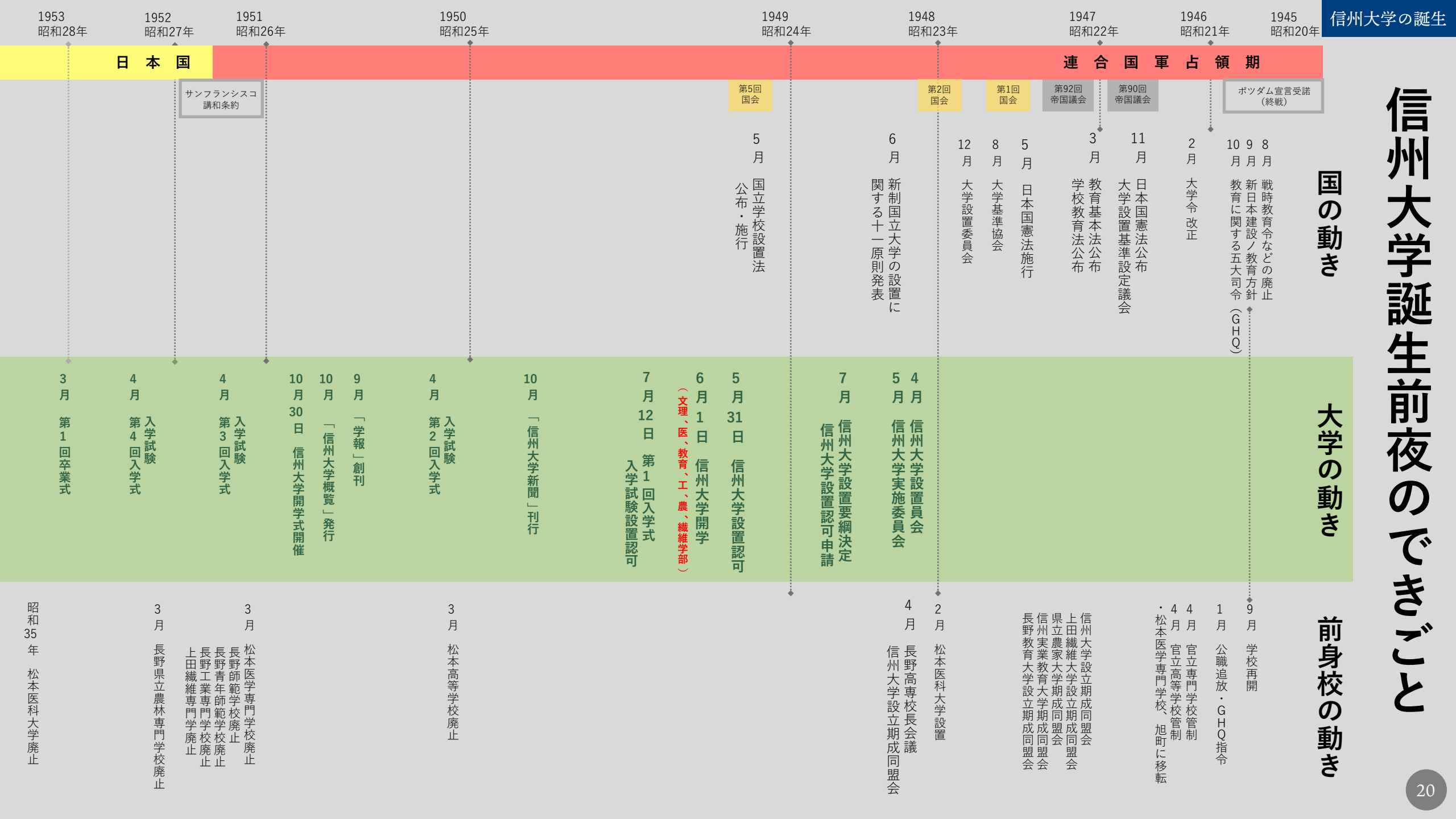
松本医科大学
松本医学専門学校
松本高等学校
長野工業専門学校
長野師範学校
長野青年師範学校

信州大学誕生前夜のできごと

国の動き

大学の動き

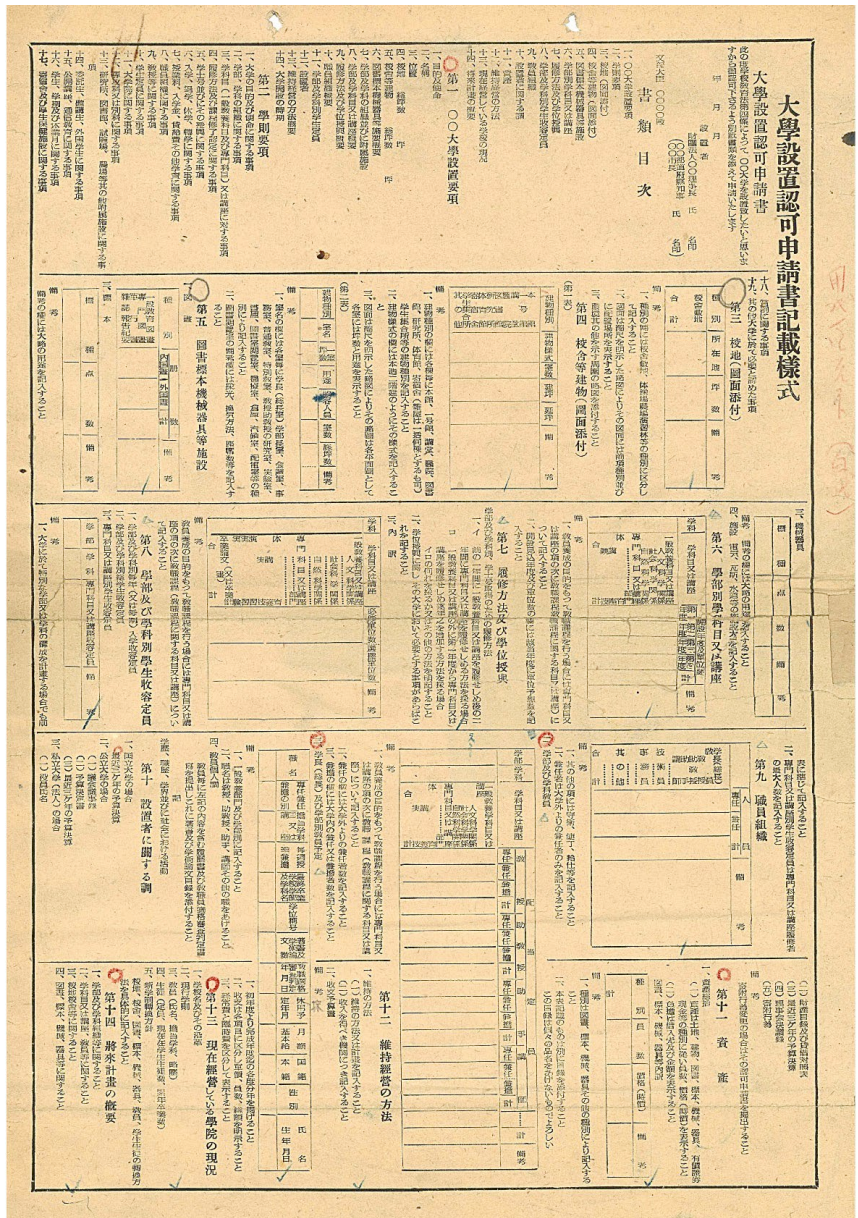
前身校の動き



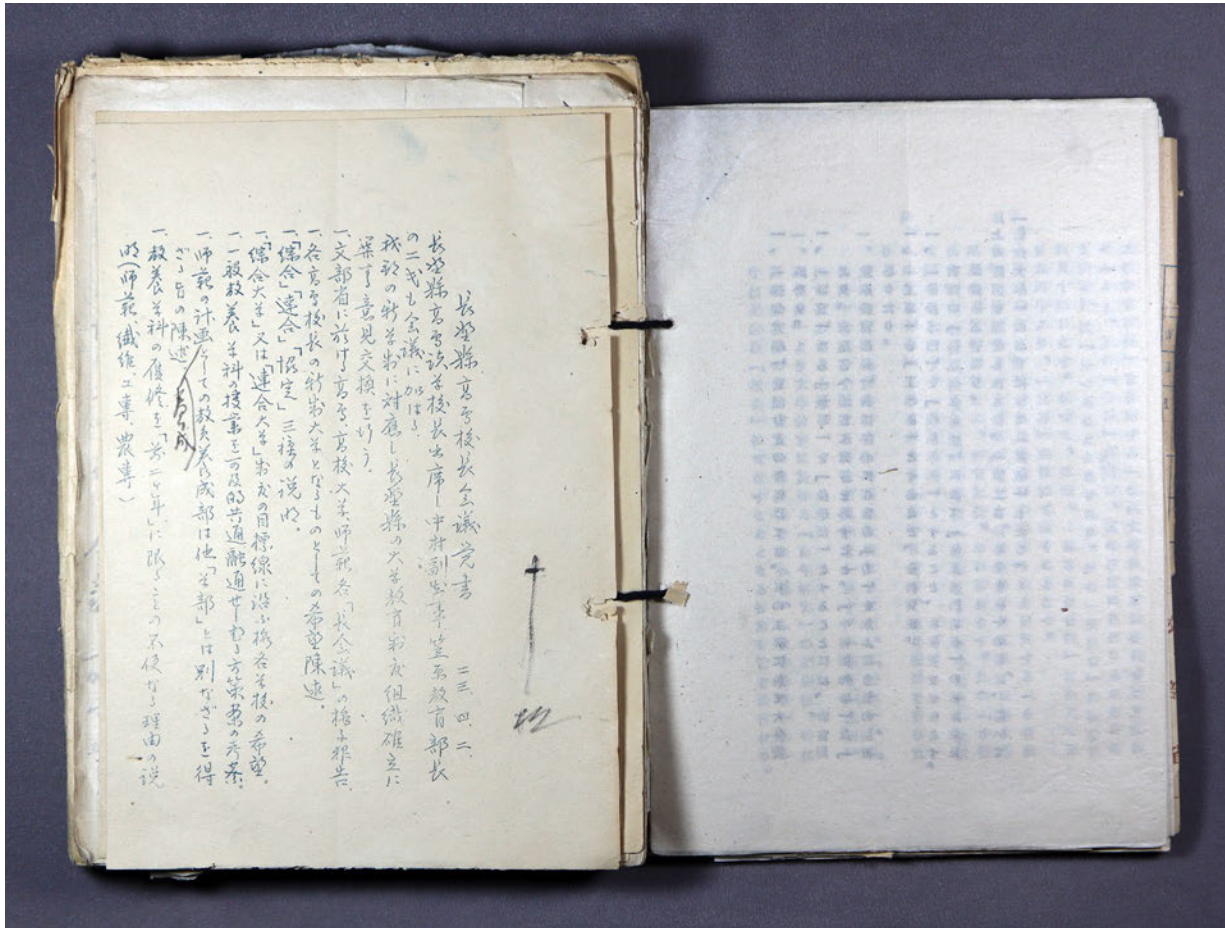
大学設置認可申請書様式

1948（昭和23）年
大学史資料センター 蔵

1948（昭和23）年、文部省は各都道府県にあてて、新制大学の設置認可の申請書の書式を示した。
その内容は「一 大学設置要綱」にはじまり、「十四 将来計画」に及ぶ詳細な内容を求めるものであった。信州大学の場合、申請書は各学部の母体となる前身校単位で作成され、まとめて提出された。



長野県高専校長会議覚書



1947（昭和22）年4月
大学史資料センター 蔵

前身校の大学・高等学校・専門学校の校長で構成される会議の要旨がまとめられている。大学設置に向け、1948（昭和23）年4月から8月にかけて約10回開催された。4月の会議では、推進組織や、総合大学をめざすという基本方針が決められた。

長野県高専校長会議覚書（翻刻）

松本医科大学長 竹内松次郎による要旨

長野県高専校長会議覚書

二三、四、二

十

松

長野県高専諸学校長出席し、中村副知事、笠原教育部長の二氏も会議に加はる。我邦の新学制に対応し、長野県の大学教育制度組織確立に関する意見交換を行う。

- 一、文部省に於ける高専、高校、大学、師範各「長会議」の様子報告。
- 一、各高専校長の新制大学となるものとしての希望陳述。
- 一、「総合」「連合」「協定」三種の説明。
- 一、「綜合大学」又は「連合大学」制度の目標線に沿ふ様各学校の希望。
- 一、一般教養学科の授業を可及的共通融通せしむる方策案の考察。
- 一、師範の計画としての教員養成部は他「学部」とは別なざるを得ざる旨の陳述。
- 一、教養学科の履修を「前二ヶ年」に限ることの不便なる理由の説明（師範、繊維、工専、農専）。
- 一、女専、青師の校舎を用いて一般教養科の授業の或る部分は、可能なる可しとの申出。
- 一、一般教養授業の大半を「松高」にて行はんとすることの案
- 一、農専（現県立）を学部列に加うることの希望。（農専校長代理及笠原教育部長）
- 一、文部省へ提出すべき「最後案」の「形成」に就て、「高専」と「師範」との間の相違点。
- 一、学芸学部と実業教育学部とを別々の「学部」と為すの案。

諸員昼食及び夕食を共にし、懇談午後七時過ぎに及び明三日午前九時より会議を続行することとして、七時三十分頃散会す。

長野県高専校長会議覚書 第二日

二三、四、三

列席員昨日の如し
議事

- 一、本県に於ける女子高等教育に関する現状並に今後の推移について（女専校長）
笠原教育部長意見を述べ
- 一、実業教育学部の別個成立に関する件
- 一、繊維学部の場合に關し懇談す
- 一、綜合大学、連合大学の組織上の差異を考案す
- 一、長野県の大学教育組織について中村副知事意見の説明ありたり。
- 一、続いて笠原教育部長この件に關して審議する委員会を設置する件について説明。
- 一、信州大学設置仮事務局を松本医科大学内に設置すること。
- 一、教員養成学部の構成について調査研究する小委員会を設けること。
委員の員数を決定す。
- 四月八日十時より師範男子部に開会。
- 一、信州大学設置準備委員会開会の日時を四月十四日十時とす。

- 一、次回高専校長会議は、四月十三日午前九時半より女専に於て開会（教務課長帯同のこと）
- 一、中村副知事説明の案に關する研究を行いたり。
- 一、午後二時半中村副理事退出す。
- 一、本日の議事覚書を審議す。

【略称解説】

高校、松高…松本高等学校

大学…松本医科大学

師範…長野県師範学校男子部、女子部

青師…長野青年師範学校

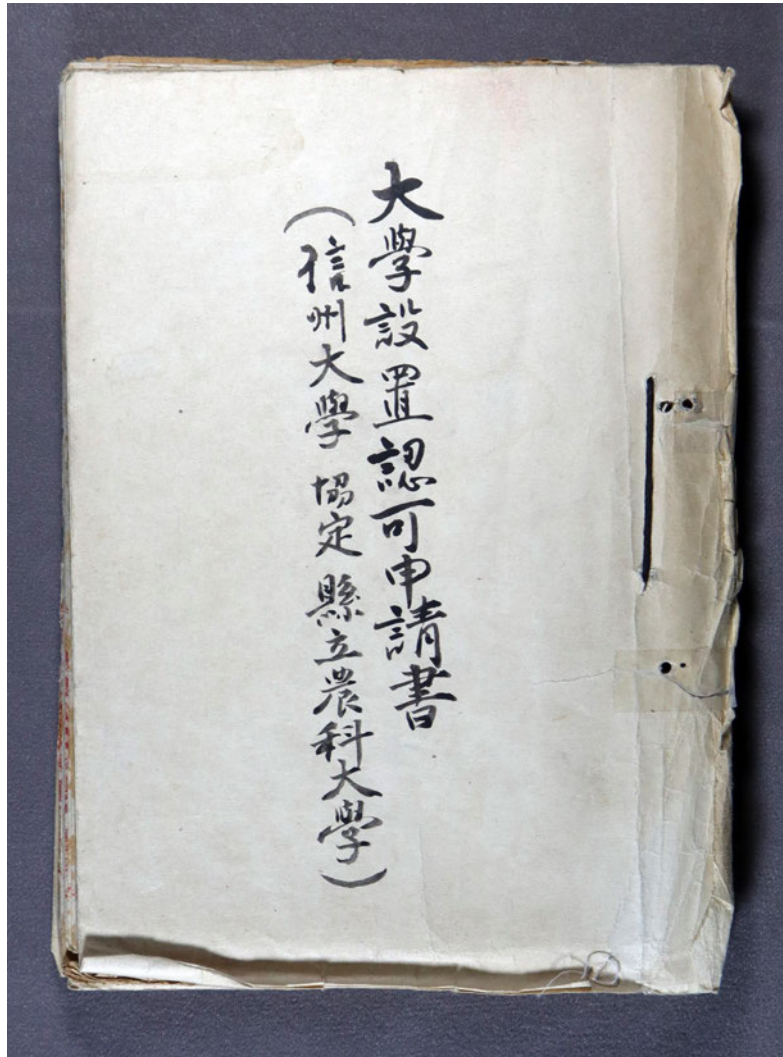
女専…長野県女子専門学校（現長野県立大学）

繊維…上田繊維専門学校

工専…長野工業専門学校

農専…長野県立農林専門学校

大学設置認可申請書（県立農科大学）

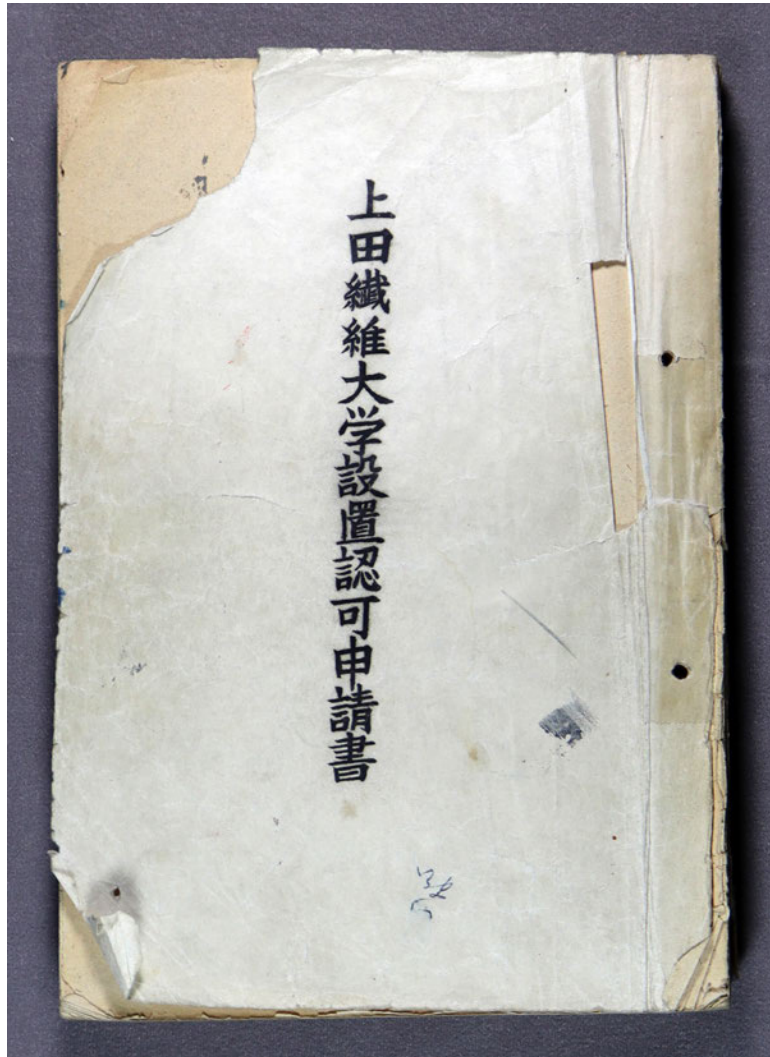


1907（明治40）年頃

個人蔵

長野県農林専門学校の「県立農科大学」昇格を目指して、長野県知事が文部省に提出した申請書。教養課程を信州大学で履修することを前提としている。

上田繊維大学設置認可申請書



1948（昭和23）年頃
大学史資料センター 蔵

上田繊維専門学校が「上田繊維大学」昇格を目指して、文部省に提出した申請書。
最終的には、教養課程を繊維学部単独で持ちながら、信州大学へ合流した。

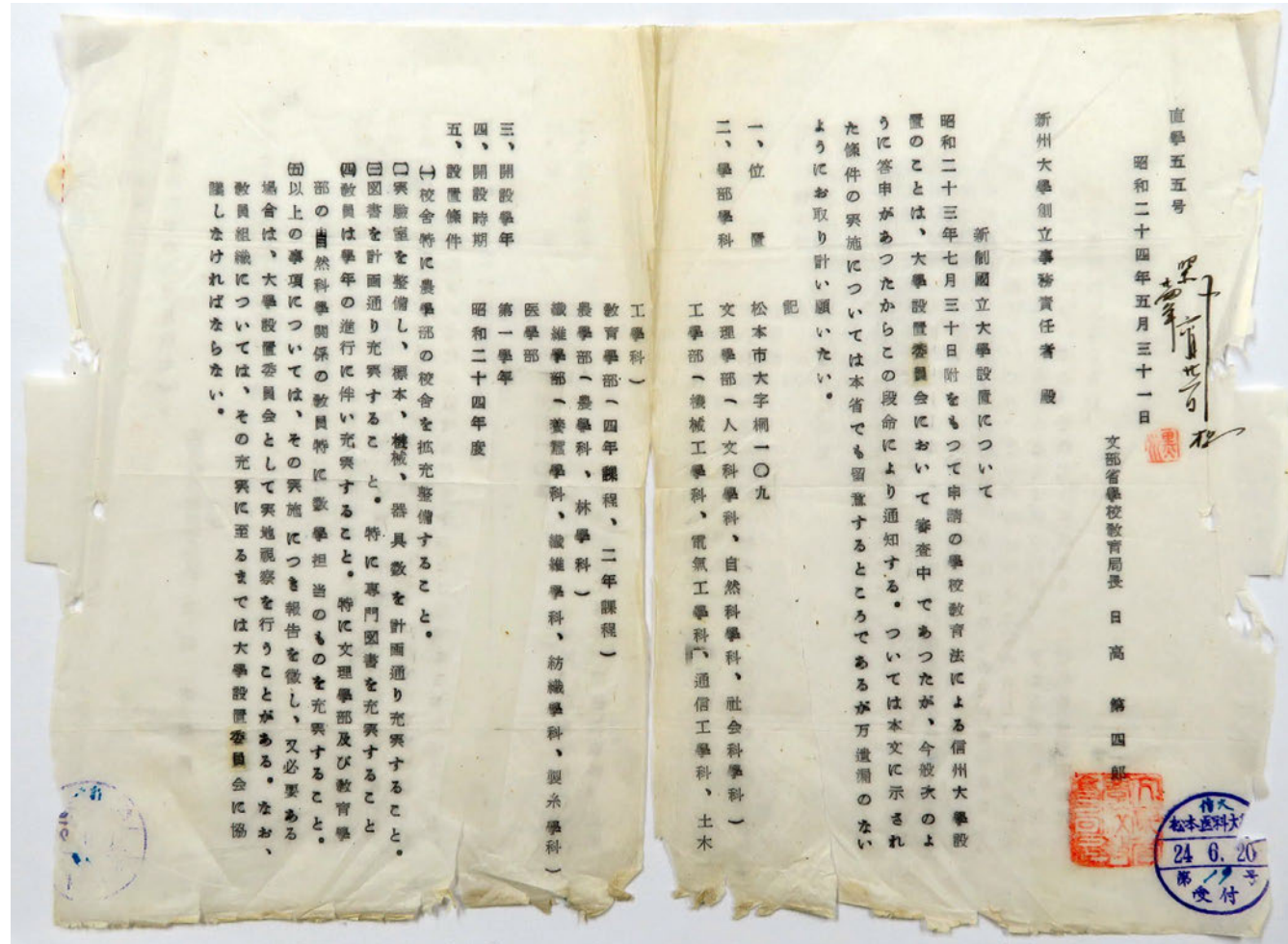
信州大学創設関係資料



1943（昭和18）～1951（昭和26）年頃
大学史資料センター 蔵

大学設立に関する書類群。11冊が現存している。
文部省に提出する設置認可申請書を作成するための準備書類（下書き、書類様式、文部省通知など）がまとめられている。

文部省学校教育局長通知「新制国立大学設置について」



1949（昭和24）年5月31日
大学史資料センター 蔵

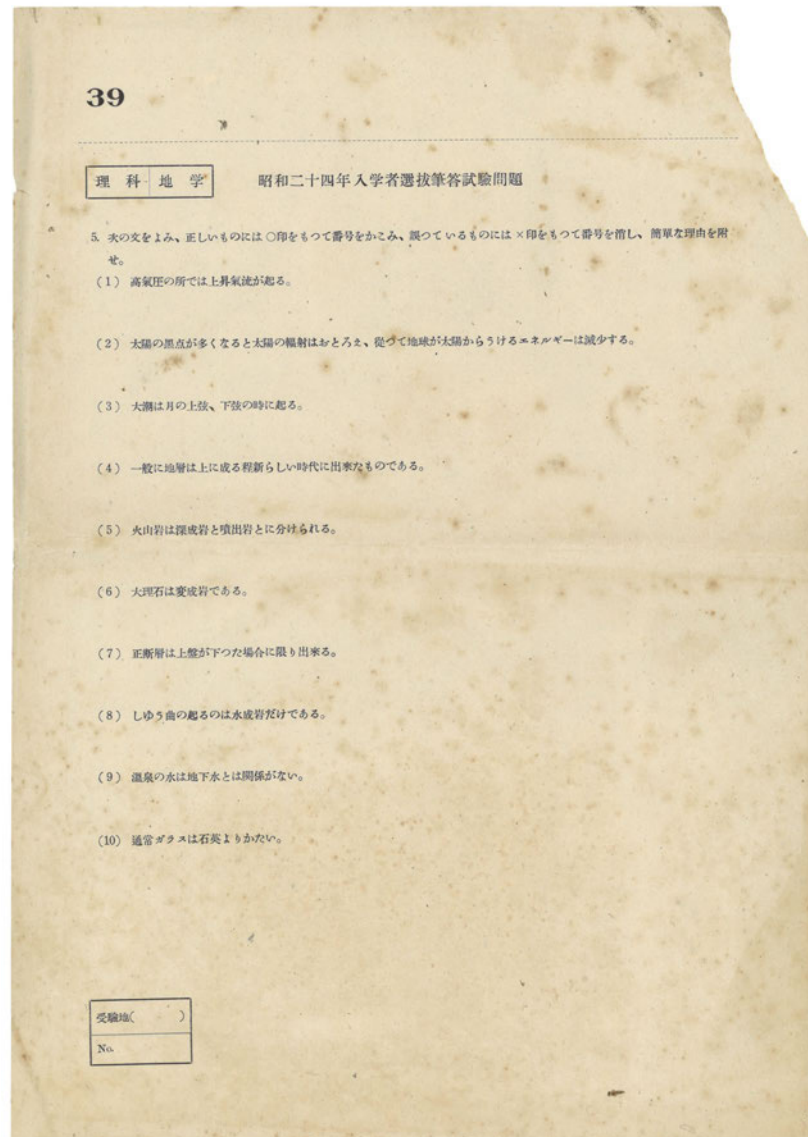
信州大学設置申請について、大学設置委員会による認可の答申内容を通知したもの。
松本市に本部を置くことや、6学部13学科とすることが明記されている。通知の宛先「新州大学」の「新」は誤字。

昭和二十四年度信州大学 入学志願者募集要項

1948（昭和23）年度
大学史資料センター 蔵

信州大学第1回入学試験に関する募集要項。





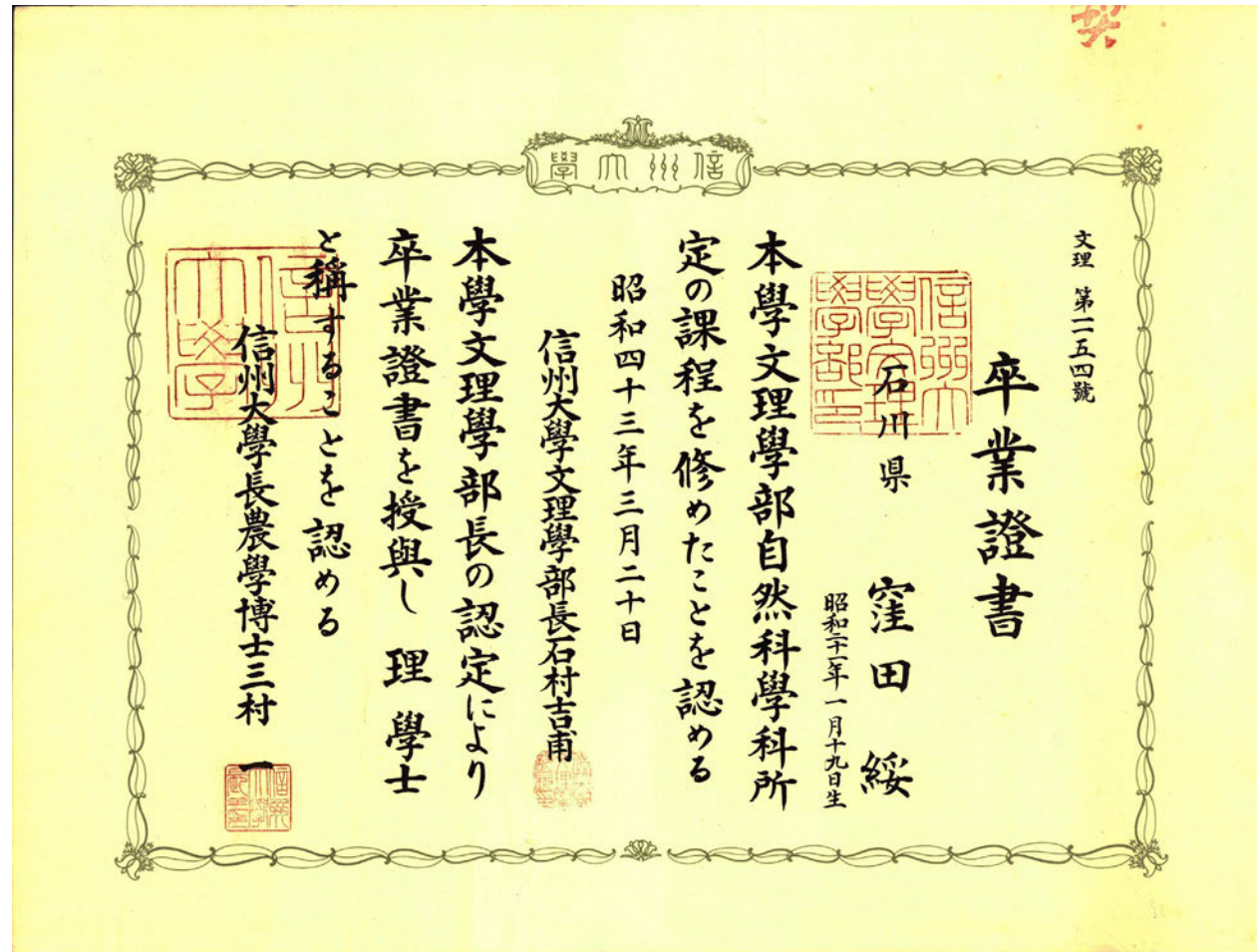
昭和二十四年入学者選抜 筆答試験問題 理科地学

1949（昭和24）年6月

教育学部 蔵

信州大学第1回入学試験のうち理科地学の問
題。

昭和四十二年度信州大学文理学部卒業証書

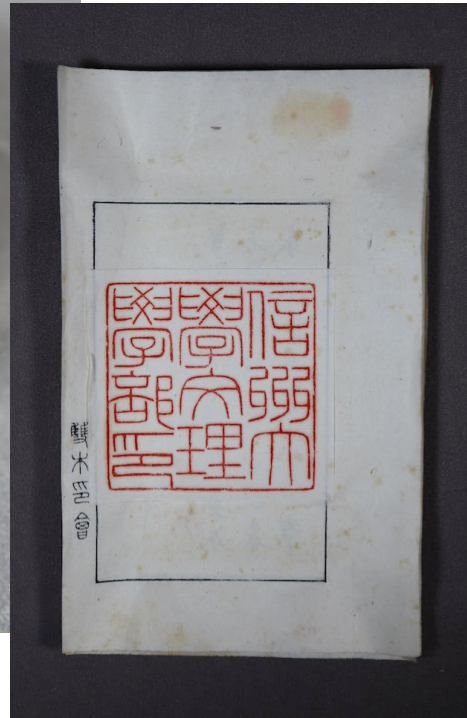


1968（昭和43）年3月20日

大学史資料センター 蔵

文理学部長による課程修了の認定と、
大学長による卒業と学士号の承認が
記される。

信州大学文理学部印



1949（昭和24）年頃
人文学部 蔵

信州大学文理学部の印。正確な作成年は未詳。

各キャンパス今昔

キャンパス メニュー



長野キャンパス
[教育]

長野キャンパス
[工]

松本キャンパス
[人文・経法・理・医]

上田キャンパス
[繊維]

キャンパス名を
クリックすると
見たいキャンパスのページに
飛ぶことができます。
クリックせずに
そのまま進んでも OKです。



伊那キャンパス
[農]

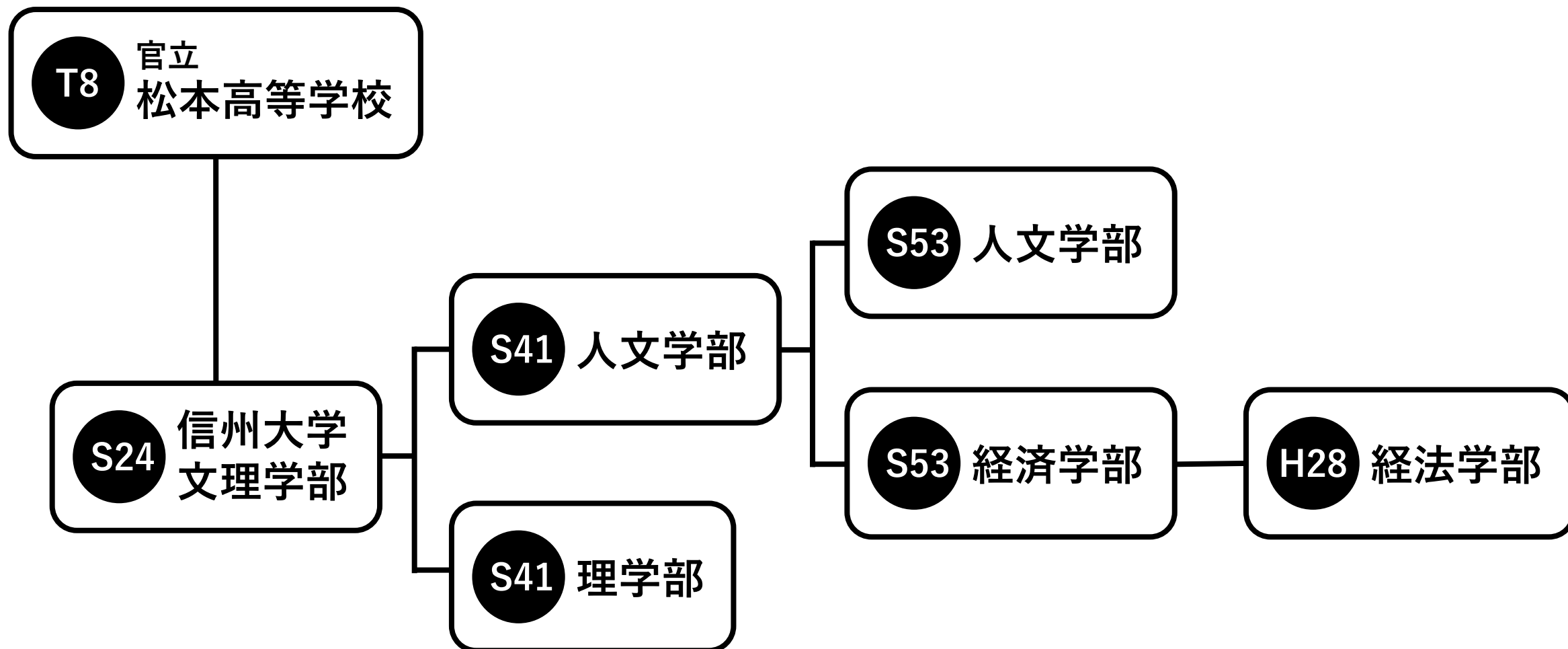
松本キャンパス

現在、松本キャンパスには、医学部・人文学部・理学部・経法学部があります。この地には、旧陸軍歩兵第五十連隊が置かれていました。1944（昭和19）年、松本医学専門学校が設置され、戦後に連隊跡地に移転しました。その後、松本医科大学を経て、1949（昭和24）年の信州大学設立時に医学部となりました。文理学部はあがたの森をキャンパスとし、人文学部と理学部に改組されたのち、現在地に移転しました。1978（昭和53）年、人文学部経済学科は経済学部になり、さらに2016（平成28）年、経法学部となり、現在に至ります。

松本キャンパス



人文・経法・理学部 沿革



人文学部 年表

- 1919
(T8) 旧制松本高等学校設立
- 1949
(S24) 信州大学（新制）発足、文理学部設置（人文・社会科学・自然科学の3科）
- 1966
(S41) 人文学部文学科発足、文理学部を人文学部と理学部に改組
- 1973
(S48) 県キャンパスから旭町キャンパスへ移転
- 1978
(S53) 人文学部を人文学部と経済学部へ改組
- 1982
(S57) 大学院人文科学研究科（修士課程）設置
- 1992
(H4) 大講座制へ改組（16小講座から5大講座へ）
- 1995
(H7) 人文学科を人間情報学科・文化コミュニケーション学科へ改組
- 2013
(H25) 2学科（人間情報学科・文化コミュニケーション学科）から1学科（人文科学科）へ改組

経法学部年表①

- 1919
(T8) 旧制松本高等学校設立
- 1949
(S24) 信州大学（新制）発足、文理学部設置（人文・社会科学・自然科学の3科）
- 1966
(S41) 人文学部経済学科設置
- 1978
(S53) 人文学部を人文学部と経済学部へ改組
- 1981
(S56) コース制カリキュラム導入
- 1984
(S59) 学年制カリキュラム導入
- 1989
(H1) 社会人大学院、経済・社会政策科学研究科設置
- 1993
(H5) 4大講座から6大講座へ改組
- 1995
(H7) 経済システム法学科を設置して2学科制となる

経法学部 年表②

1999
(H11)

新校舎完成、創設20周年記念行事

2002
(H14)

大学院長野サテライト開始

2003
(H15)

大学院開設

(経済・社会政策科学研究科、イノベーションマネジメント専攻設置、
地域社会イニシアティブコース)

2005
(H17)

法科大学院設置 (平成29年3月廃止、ならびに信州大学法務学習支援室設置)

2016
(H28)

経法学部設置 (応用経済学科・総合法律学科)

理学部年表①

- 1919
(T8) 旧制松本高等学校設立
- 1949
(S24) 信州大学（新制）発足、文理学部設置
- 1965
(S40) 附属臨湖実験所設置
- 1966
(S41) 文理学部を人文学部と理学部に改組（数学科・物理学科・化学科・地質学科）
- 1970
(S45) 理学専攻科設置（数学、物理学、化学、地質学）
- 1975
(S50) 生物学科増設
- 1976
(S51) 大学院理学研究科（修士課程）設置（数学、物理学、化学、地質学）
- 1995
(H7) 数理・自然情報科学科、物理科学科、化学科、地質科学科、生物科学科、物質循環学科の 6 学科に改組
- 1998
(H10)
 - ・ 大学院理学研究科を廃止し、大学院工学系研究科を設置
 - ・ 博士前期課程 3 専攻設置、理学系博士課程設置

理学部 年表②

2002
(H14)

附属臨湖実験所を山地水環境教育研究センターに改称

2005
(H17)

大学院総合工学研究科（博士課程のみ）設置、
工学系研究科博士前期課程を大学院工学系研究科（修士課程）に改称

2012
(H24)

大学院工学系研究科を廃止し、大学院理工学研究科（修士課程）設置

2015
(H27)

6 学科を 2 学科（数学、理学）7 コースに改組
（数理科学、自然情報学、物理学、化学、地球学、生物学、物質循環学）

落成記念写真帳（松高）

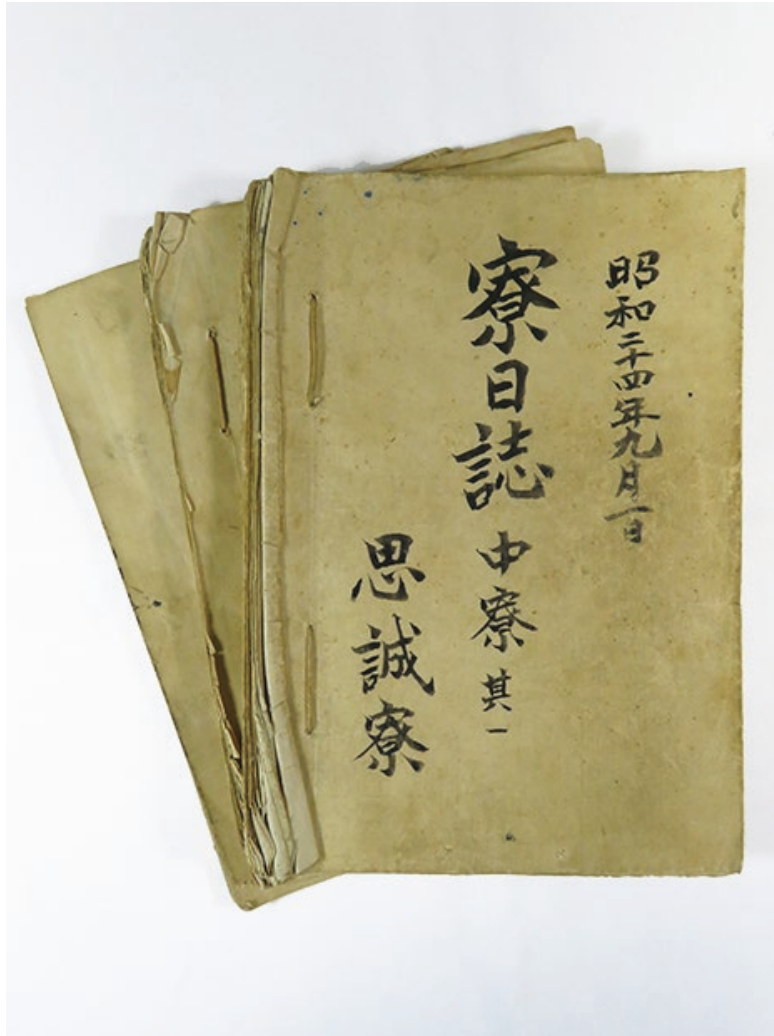


1922（大正11）年10月

中央図書館 蔵

旧制松本高等学校の校舎落成を記念して作られた写真アルバム。巻頭には、松本中学校（現：松本深志高等学校）の校舎を間借りしていた開校当初からの念願であった校舎新築への喜びが記されている。

思誠寮日誌



1949（昭和24）年
人文学部 蔵

旧制松本高等学校から信州大学へと
引き継がれた「思誠寮」に暮らした
学生たちが、日々書き綴った寮日誌。

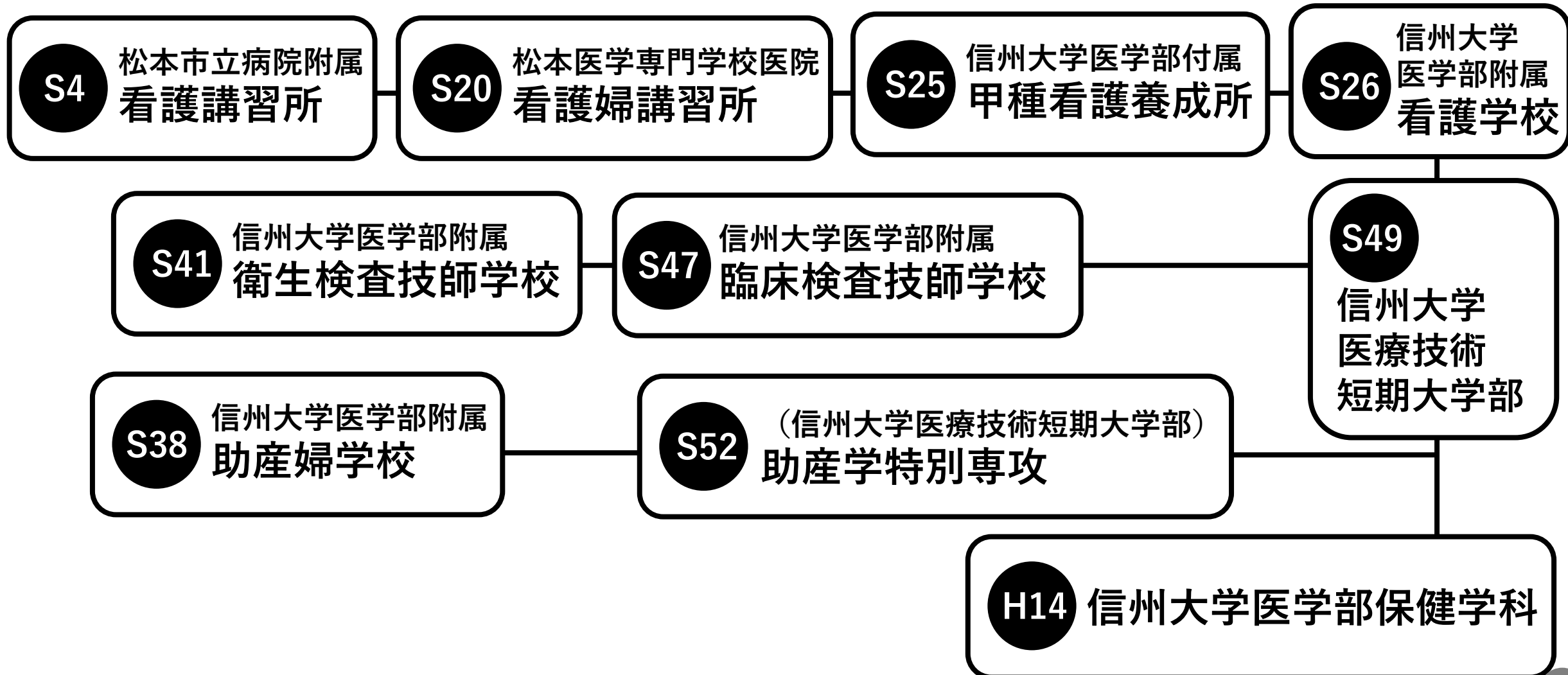
医学部医学科 沿革

S19 官立
松本医学専門学校

S23 官立
松本医科大学

S24 信州大学医学部医学科

医学部保健学科 沿革



医学部年表①

1929
(S4)

【保】松本市立病院附属看護講習所設置

1944
(S19)

松本医学専門学校設置

【保】松本医学専門学校医院看護婦講習所と改称

1945
(S20)

市立松本病院を松本医学専門学校附属病院として移管

【保】同時に看護婦講習所を移管

1946
(S21)

五十連隊跡地へ移転

1948
(S23)

松本医科大学設置

1949
(S24)

信州大学（新制）発足，医学部設置

1950
(S25)

【保】医学部附属甲種看護婦養成所に改組

1951
(S26)

医学部医学科設置認可

【保】医学部附属看護学校と改称

医学部年表②

1955
(S30)

医学進学課程設置

1958
(S33)

大学院医学研究科（博士課程） 設置

1963
(S38)

【保】 医学部附属助産婦学校設置

1966
(S41)

【保】 医学部附属衛生検査技師学校設置

1972
(S47)

【保】 医学部附属臨床検査技師学校に改組

1974
(S49)

【保】 医療技術短期大学部設置（看護科、衛生技術科）

1983
(S58)

【保】 理学療法学科作業、療法学科

1994
(H6)

医学部附属加齢適応研究センター設置

2002
(H14)

【保】 信州大学医学部保健学科に改組

医学部 年表 ③

2005
(H17)

附属病院先端医療推進センター設置

2007
(H19)

大学院医学研究科を大学院医学系研究科と改め保健学専攻（修士課程）設置、
高度救急救命センター設置

2009
(H21)

保健学専攻（博士後期課程）設置、
保健学専攻（修士課程）を同（博士前期課程）に改称

2010
(H22)

小児環境保健疫学研究センター設置

2011
(H23)

メディカルシーズ推進室設置

2012
(H24)

大学院医学系研究科を医科学専攻（修士課程）、医学系専攻（博士課程）、
疾患予防医科学系専攻（独立専攻・博士課程）、
保健学専攻（博士前期課程・博士後期課程）に改組

2013
(H25)

アミロイドーシス研究・診断・治療センター設置

2014
(H26)

「講座」を医学科では「教室」、保健学科では「領域」に改称

2015
(H27)

学部医学教育センターを廃止し、
医学部・医学部附属病院医学教育研修センターを設置

2018
(H30)

- ・大学院医学系研究科の保健学専攻（博士前期課程）を
保健学専攻（修士課程）に名称変更
- ・大学院医学系研究科の疾患予防医科学系専攻（独立専攻・博士課程）を廃止
- ・大学院博士課程の「医学系研究科」と「総合理工学系研究科」を統合再編し、
「総合医理工学研究科」を設置
- ・大学院医学系研究科の医学系専攻（博士課程）、保健学専攻（博士後期課程）が
総合医理工学研究科の医学系専攻（博士課程）、
生命医工学専攻（博士課程）に改組

松本医学専門学校第1回入学訓示

1944（昭和19）年5月10日

大学史資料センター 蔵

1944（昭和19）年4月1日、医学部の前身校、松本医学専門学校は開校した。同日付けで東京帝国大学教授竹内松次郎が校長に就任、16日の一次試験、24・25日の身体検査・人物考査を経て、26日合格発表。校舎が定まらない中、5月10日に第1回入学式が松本高等学校講堂を会場に挙行された。この資料は、竹内校長が新入生に向けて行った、8項目にわたる訓示である。入学式に先立って作成された訓示は、学生ひとり一人に手渡された。

松本醫學専門學校 第一回入學式 訓示

本校長ハ、先づ以テ、心ヨリ諸君ノ合格入學ヲ喜ビ、諸君ノ父母ト此ノ慶ヲ同ジクセントス。之ト共ニ、選ニ漏レルタル多數ノ受験生並ニ其ノ父母タル方々ニ對シテ、深キ同情ノ意ヲ表セント欲ス。

余ハ舊ニ、四月十五日、即チ入學試験施行ノ前日早朝、余ガ自ラ認メタル小文章ニ於テ、國家ニ奉公シテ、最大ノ効果ヲ舉ゲンガ爲メ、諸君ガ修業ヲ志シタルコトニ對シテ、深厚ナル敬意ヲ表セリ。而シテ天下ノ秀才ヲ集メテ之ヲ教育スルコト、所謂三樂ノ一ナランモ、此ノ樂ハ豈余一個人ノモノタルニ止マラン哉。

本日、茲ニ諸君ヲ迎ヘテ松本醫學専門學校第一回入學式ヲ舉行スルニ際シ、余ハ數個ノ要點ニ就テ、諸君ノ注意ヲ喚起セントス。

一、諸君ハ松本醫學専門學校ノ第一回入學生ナリ。松本醫學専門學校ハ、日本國家ヲ要請ニ基キテ、日本國家ガ設立セルモノナリ。諸君ハ、余及教授諸先生ト共ニ、高尚ナル校風ノ樹立ニ協力セラレヨ。

一、國ヲ學ブ者、先づ人ヲ知ラザル可カラズ。即チ高邁ナル人格、不撓ナル精神ヲ養ハザルベカラズ。須ラク同道ヲ旨トスベク、維新ニ心ヲ盡スコト勿レ。

一、人ヲ知ラントスルハ一身ノ爲ニ非ズ、醫ヲ學ブモ亦同ヨリ同斷ナリ。諸君ハ、須ラク徹底セル國家觀念ヲ養ヒ、粉骨碎身盡忠報國ノ念ニ燃ユ可シ。易經ニ曰ク、王臣之無疆之故。古歌ニ曰ク、海行かば水づく屍、山行かば草むす屍。大君ノ邊にこそ死なめ、顧みはせじ。

一、人ヲ知ラントスル者、須ラク恩ヲ知ルベシ。恩ヲ知ラザルモノハ人ニ非ズ。日本皇ノ御恩、日本國家ノ恩、父母ノ恩、師ノ恩、又友人ノ恩。更ニ本校設立ニ關シテノ長野縣ノ恩、松本市ノ恩ヲ知ルベシ。而シテ知恩ハ報恩ヘノ努力ノ念ヲ喚起スルモノナリ。

一、常ニ諸君自身ノ位置ヲ考フベシ。此ノ身ハ、何レノ國家、何レノ時代、何レノ關係ニ在リヤヲ考察反省スベシ。努力修身ノ念自ラ生ズベク、其ノ方針方法自ラ定メ得シ。身ヲ修ムルハ須ラク恭敬ナルベク、輕躁ハ端士ニ非ザルナリ。須ラク自ラ自問フベク、自ラ之ニ答フベシ。

一、學ヲ修ムルニ方リ、須ラク常ニ前方最高峯ニ奮進スベク、小成ニ安ンズベカラズ。安ラ倫ムベカラズ、須ラク難キニ就クニ勇ナルベシ。松本市ニテハ、坐シテ、常念、槍、穂高、乗鞍ノ諸岳ヲ眺ム得ルモ、松本市ニテハ望ミ得ザル富嶽ノ存在ヲ思フベシ。

一、修學ハ須ラク自動的タルベシ。先づ、學ヲ修ムルノ法ヲ習フニハ、他動的教育ノ幾分ヲ必要トスルモ、夫ハ眞ニ手ホドキノ階域ヲ越エズ。修學ノ法ヲ學ビタル上ハ、必ず進ンデ自ラ學バザルベカラズ。自動的の習コソ、眞ノ「to be a doctor」ナルベシ。而シテ、諸君ハ、諸君ノ學問慾ヲシテ無限大ナラシムベシ。

一、諸君ノ「アンテナ」ヲ鋭敏ナラシメ、諸君ノ電波受信器ヲシテ最大性能度ヲ獲得セシムルニ最メラレヨ。讀書力養成ノ要ハ、外國語修得ノ利、自ラ明カナルベシ。蓋シ、外ヲ知ラントスルハ、内ヲ整理センガ爲ナリ。敬ヲ知リ、謀ヲ伐（探）ミタルスルハ、戰ニ勝タルスル者ノ必ズ努力スル所ナリ。

一、諸君ハ常ニ諸君ノ健康ニ注意スベシ。此事、言フハ易ク、行フハ難シ。學校長タル余ハ、本校教授諸先生ノ協力ノ下ニ、特ニ諸君ノ健康ニ注意シテ、之ガ指導ヲ怠ラザランコトヲ期ス。是レ余ノ國家ニ對スル重大任務ノ一ナリト心得。蓋シ、諸君ハ、將來日本國家須要ノ良材タルベキヲ以テナリ。

以上數項ニ互リ、本日ノ第一回入學式ニ於テ、特ニ訓示シテ、諸君ノ注意ヲ喚起セントス。余ハ、今日以往余ヨリノ「エマナチオン」ガ諸君ニ及ボスナラン影響ヲ鑑ミル時、日本國家ニ對シ、將又諸君ノ父母ニ對シ、眞ニ恐懼ニ勝ヘザルモノアリ。六十一歳ノ男子ハ、不足ヲ是レ憂フルナリ。芝シキヲ是レ懼ルナリ。余ハ諸君ト共ニ、身ヲ修メン。諸君ト共ニ、理想ヲ去リテ、正シキニ就カン。諸君ト共ニ、醫學ノ最高峯ニ向ツテ進メン。人生最大ノ收穫ヲ日本國家ニ捧ゲンガ爲メ。

昭和十九年五月 日

松本醫學専門學校長 竹内松次郎

キャンパス メニュー



キャンパス名を
クリックすると
見たいキャンパスのページに
飛ぶことができます。
クリックせずに
そのまま進んでも OKです。



ここから次の章に
進むことができます

トピック
[信州大学今昔]

長野キャンパス
[教育]

松本キャンパス
[人文・経法・理・医]

長野キャンパス
[工]

上田キャンパス
[繊維]

伊那キャンパス
[農]



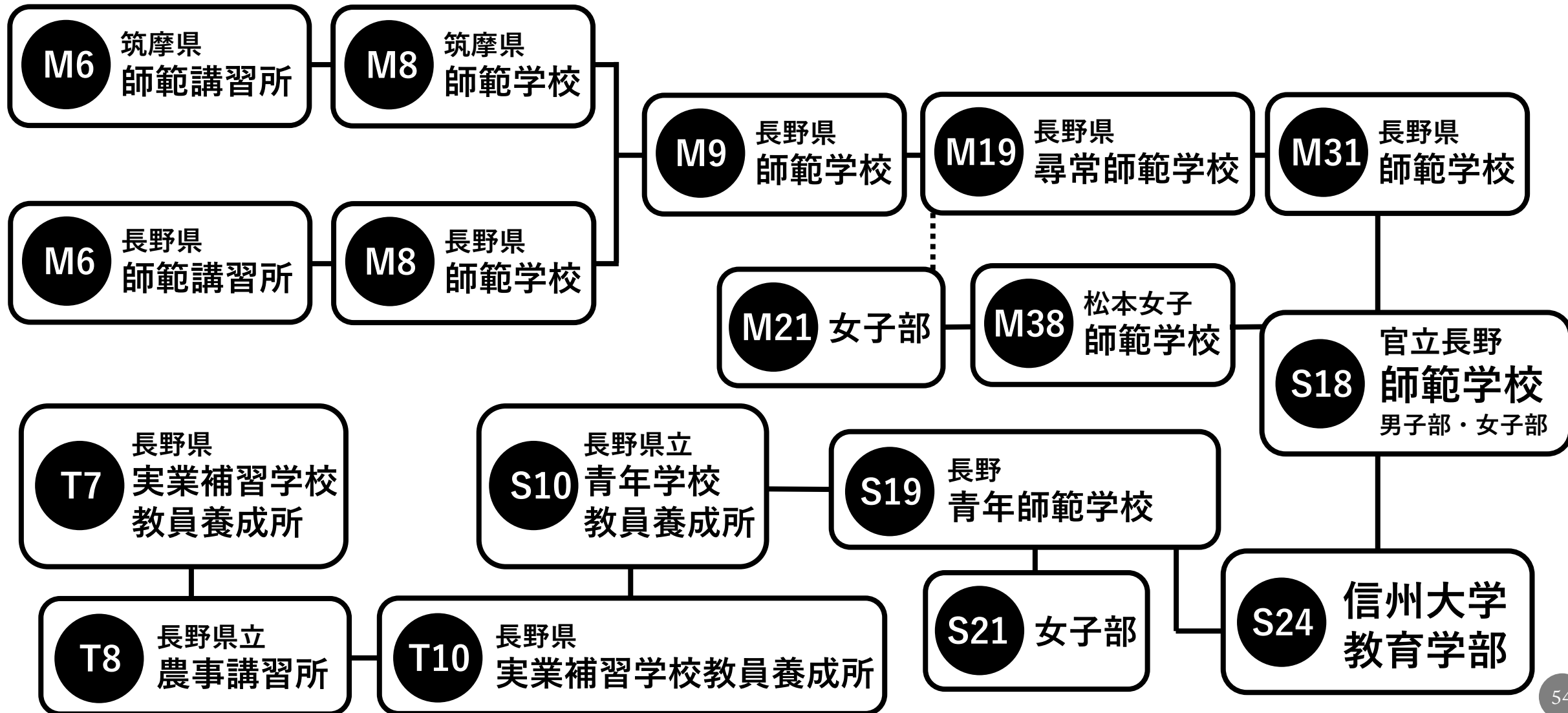
長野（教育）キャンパス

現在、長野（教育）キャンパスには教育学部があります。この地には、1908（明治41）年まで、「長野県庁」と「長野県師範学校」が隣接していました。同年5～6月、立て続けに起こった火災によりいずれも焼失し、師範学校は再建されましたが、県庁は移転することとなります。その後、師範学校は1949（昭和24）年の信州大学設立時に「教育学部」となり、現在に至ります。

長野（教育）キャンパス



教育学部 沿革



教育学部 年表①

1873
(M6)

旧長野県師範講習所・旧筑摩県師範講習所開設
(のちの官立長野師範学校男子部・女子部)

1918
(T7)

長野県実業補修学校教員養成所開設 (のちの長野青年師範学校および女子部)

1949
(S24)

信州大学 (新制) 発足
官立長野師範学校および長野青年師範学校が統合し、教育学部設置
(長野本校・松本分校)

1951
(S26)

附属長野小学校、松本小学校、長野中学校、松本中学校設置

1966
(S41)

松本分校廃止、附属志賀自然教育研究施設設置

1967
(S42)

養護学校教員養成課程設置、附属幼稚園設置

1973
(S48)

幼稚園教員養成課程設置

1974
(S49)

附属教育工学センター設置

教育学部 年表②

1975
(S50)

附属養護学校設置

1991
(H3)

大学院教育学研究科（修士課程）設置

1992
(H4)

附属教育実践研究指導センター設置

1995
(H7)

生涯スポーツ課程設置

1999
(H11)

学校教育教員養成課程に改組、
教育カウンセリング課程設置附属教育実践研究指導センター設置

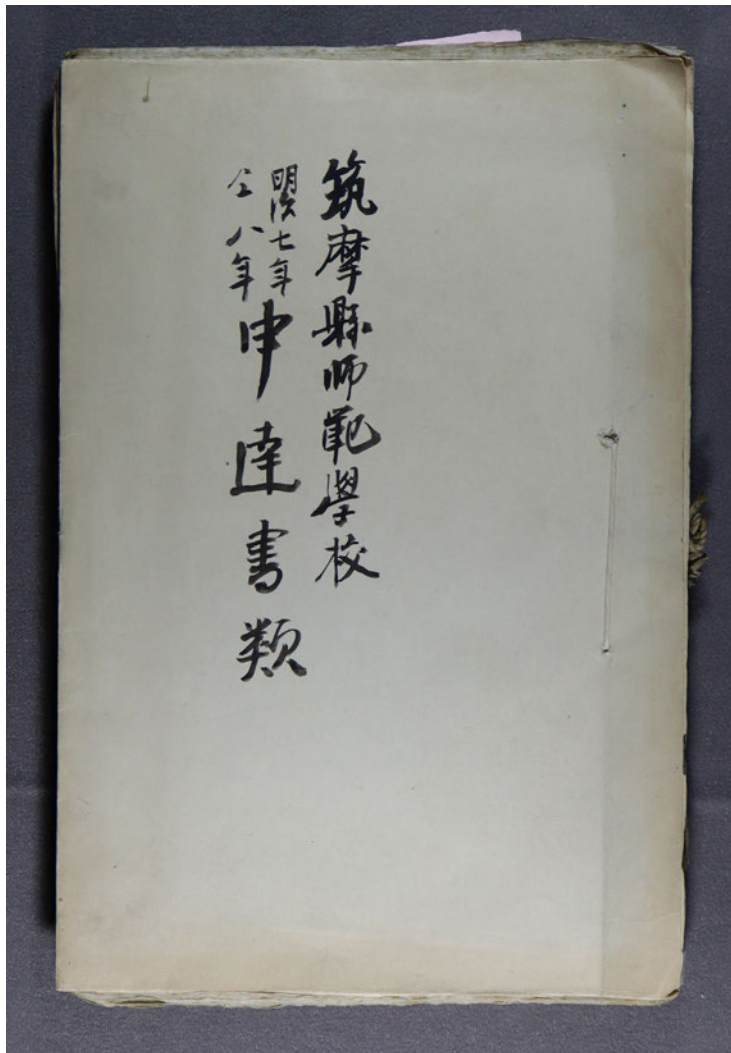
2008
(H20)

養護学校教員養成課程を特別支援学校教員養成課程に改称

2012
(H24)

講座の増設と再編成（言語、社会科学、数学、理科、技術、家庭科、
音楽、美術、スポーツ科学、教育科学、特別支援）

筑摩県師範学校 明治七年同八年申達書類



1874（明治7）～1875（明治8）年
教育学部 蔵

1873（明治6）5月設立の筑摩県師範講習所は翌年10月、同師範学校と改称した。本資料は、学生に対する免許状の交付に関する記録である。本学所蔵資料のなかで、最も古い資料である。

キャンパス メニュー



キャンパス名を
クリックすると
見たいキャンパスのページに
飛ぶことができます。
クリックせずに
そのまま進んでも OKです。



ここから次の章に
進むことができます

トピック
[信州大学今昔]

長野キャンパス
[教育]

松本キャンパス
[人文・経法・理・医]

長野キャンパス
[工]

上田キャンパス
[繊維]

伊那キャンパス
[農]



長野（工学）キャンパス

現在、長野（工学）キャンパスには工学部があります。かつてこの地には、「長野工業試験場」がありました。1944（昭和19）年、試験場の移転に伴い、長野市岡田にあった「長野高等工業学校」（1943年設立）は、「長野工業専門学校」に改組・移転し、試験場建物を校舎としました。その後、工業専門学校は1949（昭和24）年の信州大学設立時に「工学部」となり、現在に至ります。

長野（工学）キャンパス



工学部 沿革

S18 長野高等工業学校

S19 長野工業専門学校

S24 信州大学工学部

工学部 年表 ①

1943
(S18)

長野高等工業学校創立

1944
(S19)

長野工業専門学校と改称

1949
(S24)

信州大学（新制）発足
工学部設置（機械工学、電気工学、通信工学、土木工学の4学科）

1959
(S34)

工業化学科、工学専攻科設置

1962
(S37)

精密工学科設置

1967
(S42)

大学院工学研究科修士課程設置

1968
(S43)

合成化学科設置

1970
(S45)

通信工学科を電子工学科に改組

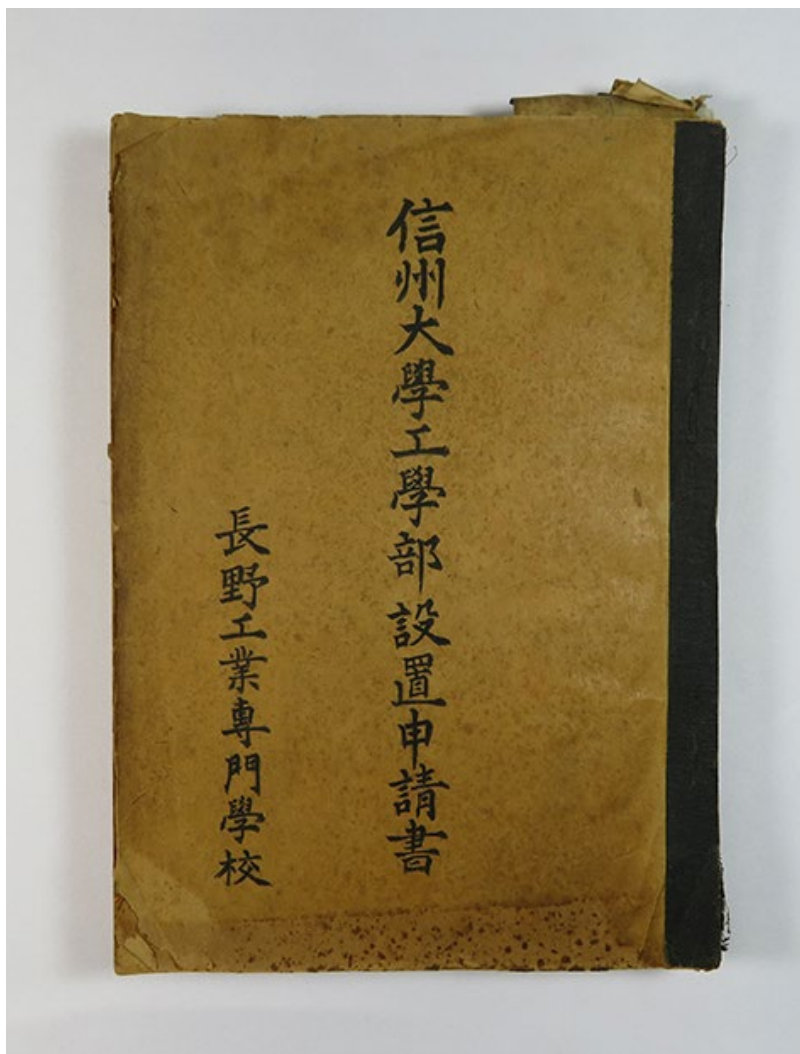
1974
(S49)

情報工学科設置

工学部年表②

- 1981
(S56) 建築工学科設置
- 1989
(H1) 工学部改組
(生産システム工学、電気電子工学、社会開発工学、物質工学、情報工学の5学科)
- 1991
(H3) 大学院工学系研究科博士課程新設改組
- 1998
(H10) 環境機能工学科設置
- 2008
(H20) 社会開発工学科を土木工学科と建築学科に改組
- 2012
(H24) 大学院理工学研究科修士課程新設改組
- 2016
(H28)
 - ・工学部改組
(物質化学、電子情報システム工学、水環境・土木工学、機械システム工学・建築学の5学科)
 - ・大学院総合理工学研究科修士課程工学専攻新設改組

信州大学工学部設置認可申請書



1948（昭和23）年7月

工学部 蔵

1948（昭和23）年7月、信州大学設置許可申請書が文部省に提出された。工学部の申請書のみが現存している。

キャンパス メニュー



キャンパス名を
クリックすると
見たいキャンパスのページに
飛ぶことができます。
クリックせずに
そのまま進んでも OKです。



ここから次の章に
進むことができます

トピック
[信州大学今昔]

長野キャンパス
[教育]

松本キャンパス
[人文・経法・理・医]

長野キャンパス
[工]

上田キャンパス
[繊維]

伊那キャンパス
[農]



伊那キャンパス

現在、伊那キャンパスには農学部があります。農学部の前身である「長野県立農林専門学校」は、1945（昭和20）年、「上伊那農業学校」（現上伊那農業高等学校）へ併設されて開講しました。現在農学部のある場所に校舎などの施設が整えられて移転したのは、1947（昭和22）年です。その後、1947（昭和22）年の信州大学設立時に「農学部」となり、現在に至ります。

伊那キャンパス



農学部 沿革

S20 長野県立農林専門学校

S24 信州大学農学部

農学部年表①

1945
(S20)

長野県立農林専門学校設立許可 同校開校

1949
(S24)

信州大学（新制） 発足、農学部設置

1950
(S25)

附属農場、附属演習林設置

1952
(S27)

長野県農林専門学校廃止

1958
(S33)

農学専攻科（農学、林学の専攻）

1960
(S35)

畜産学科増設

1964
(S39)

農学専攻科設置

1965
(S40)

森林工学科増設

1967
(S42)

農学科を改組拡充し園芸農学科に改称、農芸化学科増設

農学部 年表②

- 1969
(S44) 農学専攻科（森林工学専攻）増設
- 1972
(S47) 大学院農学研究科修士課程設置
- 1973
(S48) 農学専攻科廃止
- 1988
(S63) 園芸農学科、林学科、畜産学科、森林工学科、農芸化学科を
生物生産学科、森林科学科、生物資源科学科に改組
- 1992
(H4) 大学院農学研究科修士課程の園芸農学専攻、林学専攻、畜産学専攻、森林工学専攻、
農芸化学専攻を生物生産学専攻、森林科学専攻、生物資源科学専攻に改組
- 1997
(H9) 学部改組
- 1999
(H11) 附属農場・演習林事務部の廃止
- 2001
(H13) 大学院農学研究科修士課程、生物生産科学専攻・森林科学専攻・生物資源科学専攻を
食料生産科学専攻・森林科学科専攻・応用生命科学専攻に改組、機能性食料開発学専攻を設置
- 2002
(H14) 附属農場、附属演習林及び附属高冷地農業実験実習施設を
附属アルプス圏フィールド科学教育センターに改組

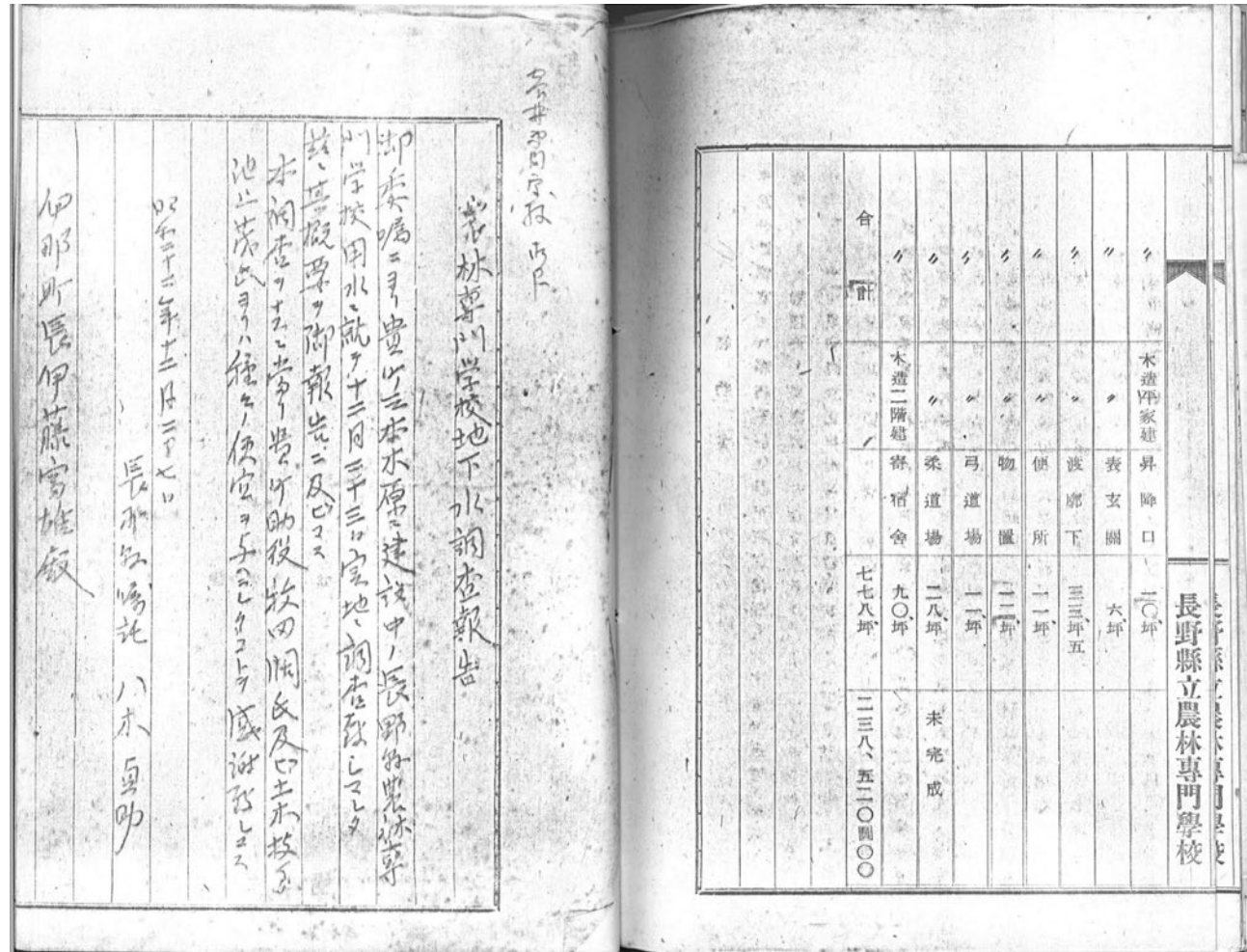
農学部 年表 ③

- 2005
(H17) 大学院工学系研究科を大学院総合工学系研究科に改組
- 2006
(H18) 食料保健機能開発研究センター設置
- 2007
(H19) 食と緑の科学資料館設置
- 2008
(H20) 野生動物対策センター設置
- 2011
(H23) 近未来農林総合科学教育研究センター設置
- 2013
(H25) 附属AFC野辺山ステーションが教育関係共同利用拠点に
- 2015
(H27) 学部改組、伊那キャンパスに名称変更
- 2016
(H28) 大学院理工学系研究科と農学研究科を統合再編し、大学院総合理工学研究科に改組
- 2017
(H29) 大学院総合工学系研究科と大学院医学系研究科を組織改編し、
大学院総合医理工学研究科を設置

長野県立農林専門学校書類

1944（昭和19）～1953（昭和28）年
農学部同窓会 蔵

1945（昭和20）年4月1日、農学部の前身校、長野県農林専門学校は開校した。校舎や施設などが整わないなか、伊那商業学校などの校舎を借りてスタートした。関連する資料は1944（昭和19）年の設立準備資料から、1953（昭和28）年までの主に設備の整備等に関する資料である。この資料には、信州大学農学部に合流する過程で準備した施設関係の地図や文書が綴られている。



キャンパス メニュー



キャンパス名を
クリックすると
見たいキャンパスのページに
飛ぶことができます。
クリックせずに
そのまま進んでも OKです。



ここから次の章に
進むことができます

トピック
[信州大学今昔]

長野キャンパス
[教育]

松本キャンパス
[人文・経法・理・医]

長野キャンパス
[工]

上田キャンパス
[繊維]

伊那キャンパス
[農]



上田キャンパス

現在、上田キャンパスには繊維学部があります。1910（明治43）年、この地に官立の「上田蚕糸専門学校」が設立されました。元々蚕糸業が盛んな土地であることや、地域の誘致活動により、上田の地が選ばれました。その後、1944（昭和19）年に「上田繊維専門学校」と改称し、1949（昭和24）年の信州大学設立時に「繊維学部」となり、現在に至ります。

上田キャンパス



繊維学部 沿革



繊維学部年表 ①

- 1910
(M43) 上田蚕糸専門学校設立
- 1944
(S19) 上田繊維専門学校と改称
- 1949
(S24) 繊維学部（養蚕学科・紡織学科・繊維化学科）
- 1950
(S25) 繊維学部附属農場設置
- 1951
(S26) 蚕糸別科を設置
- 1954
(S29) 繊維学専攻科設置
- 1961
(S36) 繊維機械学科設置、養蚕学科を繊維農学科に、紡織学科を紡織工学科に、
繊維科学科を繊維工業科学科に改称、専攻科の専攻名もあわせて改称、蚕糸別科廃止
- 1964
(S39) 繊維学研究科設置
- 1965
(S40) 繊維機械学専攻設置

繊維学部 年表 ②

- 1966
(S41) 附属高分子工業研究施設設置, 紡織工学科を繊維工学科に改称
- 1967
(S42) 繊維化学工学専攻設置
- 1974
(S49) 機能高分子学科設置
- 1985
(S60) 繊維農学科を応用生物学科に改組
- 1986
(S61) 繊維工学科を繊維システム工学科に、繊維機械学科を機能機械学科に改組
- 1987
(S62) 繊維化学工学科を精密素材工学科に改組
- 1988
(S63) 繊維工業化学科を素材開発化学科に改組
- 1991
(H3) 工学研究科及び繊維学研究科を転換改組し、工学系研究科設置
- 2008
(H20) 7 学科体制から 3 系 9 課程体制へ改組

2010
(H22)

創立100周年記念式典挙行

2012
(H24)

4系9課程に再編

2014
(H26)

繊維学部附属高分子工業研究施設閉所、
先鋭領域融合研究群国際ファイバー工学研究所を開所

2016
(H28)

4系9課程を4学科に改組

(先進繊維・感性工学科、機械・ロボット学科、化学・材料学科、応用生物科学科)

【修士課程】理工学系研究科を総合理工学研究科に改組

2018
(H30)

【博士課程】

総合工学系研究科と医学系研究科を転換改組し、総合医理工学研究科を設置

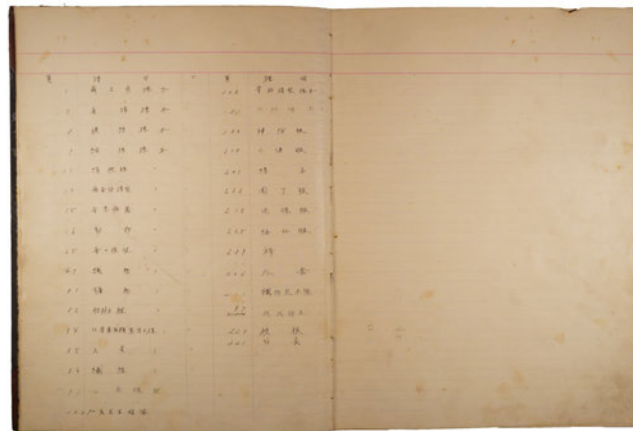
出納帳



背表紙



表紙



本紙

1910（明治43）～1953（昭和28）年
繊維学部 蔵

上田蚕糸専門学校（繊維学部的前身）で使用されていた、金銭の収支を記録するための帳簿。1910（明治 43）年の開校時、様々な繭や蚕の標本を購入したことが、見開き3 ページにわたって記されている。他に、蚕糸関連の図書や実験データの記録用紙、「駱駝毛」や「山羊毛」などの繊維標本も購入していることがわかる。

上田蚕糸専門学校開校式記念絵葉書

1913（大正2）年
繊維学部 蔵



上田蚕糸専門学校（繊維学部の前身）の開校式を記念して作られた絵葉書。上の絵葉書では、手前に桑畑が広がる様子と、中央には製糸工場の煙突が描かれ、養蚕や製糸に関する実習を行っていた開校当時の様子がうかがえる。右端には、現在も繊維学部資料館として活用されている貯繭庫（登録有形文化財）が描かれている。



織物見本帳

江戸末期～明治時代

繊維学部 蔵

織物の中で最も雅やかな、錦（にしき）織物を中心におさめた織物裂（ぎれ）見本帳です。上田蚕糸専門学校で教材として使われた織物見本帳は、信州大学繊維学部には6冊（634裂）残っています。中の織物は、江戸末期から明治時代にかけて製織され、主に宮中・華族などに納められたものと推量されますが、詳しい由来はわかりません。日本の伝統的な紋様（もんよう）の織物が多く、織物を設計するための貴重な資料になります。

展示資料：パネル c



生糸商標彙帖

明治～大正時代

繊維学部 蔵

製糸科2回生が、全国の製糸会社から集めて学校に寄贈した841枚の商標で、1913（大正2）年の開校記念式典で展示されました。

当時、生糸は日本の重要な輸出産業でした。商標には、外国人から見てエキゾチックな日本的デザインやローマ字、英語・フランス語も使われています。また、地域名に「信濃」など旧国名が多く、当時の人々の「国」の意識もうかがえます。

写真の資料は、上田市の常田館などの商標。（常田館は、現在の笠原工業の前身の企業です。）

養蚕寿古六

1982（明治25）年以降
繊維学部 蔵



日本で養蚕技術が科学的に確立してきた明治20年代以降、生産にかかわる多くの庶民に知識や情報を周知するために、行政的な努力が続けられました。すごろくは、庶民の娯楽を利用して正しい養蚕法を広めようとしたものです。

このすごろくは、小県蚕業学校（現在の**上田東高校**）の三吉米熊校長が校閲していますので、1892（明治25年）以降のものと推定されます。

すごろくの枠は、養蚕・製糸・生糸の輸出と並んでいて、自分と国の繁栄へと進む様子がリアルに描かれています。

キャンパス メニュー



キャンパス名を
クリックすると
見たいキャンパスのページに
飛ぶことができます。
クリックせずに
そのまま進んでも OKです。



ここから次の章に
進むことができます

トピック
[信州大学今昔]

長野キャンパス
[教育]

松本キャンパス
[人文・経法・理・医]

長野キャンパス
[工]

上田キャンパス
[繊維]

伊那キャンパス
[農]



トピック

信州大学今昔

信州大学開学式

1950 (昭和25) 年
10月 30日 (月)

開学式典
記念祝賀会
記念講演会

11 時 22 分
13 時
15 時

会場 教育学部松本分校講堂（現附属松本小・中学校の地）
会場 教育学部松本分校および医学部の建物など三会場
会場 文学部講堂（旧制松本高等学校講堂）
「アメリカを見て」 鳥養利三郎 京都大学長
「歴史を超えるもの」 務台理作 東京教育大学教授

出典『学窓そして三十年』（引用元信州大学新聞教育学部本校版）



信州大学開学式

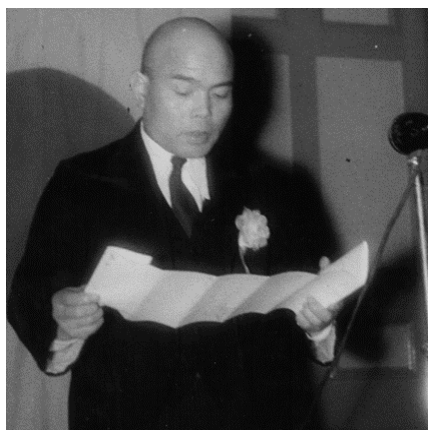
式次第

- 一 開式
- 一 国歌斉唱
- 一 学長式辞
- 一 設立経過報告
- 一 祝辞
- 一 祝電披露
- 一 閉式



祝辞

片桐 知從	前長野県議会議長
松島 鑑	長野県教育委員長
松橋 久左衛門	長野市長
筒井 直久	松本市長
小林 陸	学生代表（農学部二年）



祝辞 | 文部大臣（代理）
劔木 亨弘 文部省事務次官



祝辞
林 虎雄 長野県知事



学長式辞
高橋 純一 信州大学長



祝辞 国立大学長代表
鳥養 利三郎 京都大学長

開学記念写真

1950 (昭和25) 年10月
大学史資料センター蔵



談笑する竹内前医学部長ら



記念式会場入口



講演会場となった文理学部



初代学長 高橋純一



記念式典の模様を伝える『開学記念写真集』には
最初に開学式場に出入りする人々の写真がある。
アーチに杉の葉を挿して、祝賀の高揚感が伝わる。

信州大学を牽引した

歴代学長

創立から70年余、長い歴史を誇る長野県唯一の国立大学、信州大学。
それぞれの時代で大学運営を先導し精力的に組織を牽引された歴代の学長をご紹介します。



初代学長
高橋 純一



第2代学長
佐藤 武雄



第3代学長
伊藤 武男



第4代学長
三村 一



第5代学長
池田 雄一郎



第6代学長
加藤 静一



第7代学長
北條 舒正



第8代学長
赤羽 太郎



第9代学長
宮地 良彦



第10代学長
小川 秋實



第11代学長
森本 尚武



第12代学長
小宮山 淳



第13代学長
山沢 清人



第14代学長
濱田 州博



第15代学長
中村 宗一郎

信州大学歌誕生

信州大学創立70周年及び旧制松本高等学校100周年の節目の年となる2019年の記念事業として「信州大学歌」を制定しました。大学歌は一般公募することとし、まず歌詞の募集では、224件の作品をお寄せいただきました。厳正な選考を行なった結果、奈良県生駒市在住の岡部剛機様の作品を「信州大学歌」の歌詞に決定いたしました。

また、続いて選考された歌詞への作曲を募集したところ、227件の作品をお寄せいただきました。これも厳正な選考を行ない、埼玉県所沢市在住の松長 誠様の作品を「信州大学歌」の作曲作品として決定いたしました。発表は2019（令和元）年6月1日、信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念式典にて行なわれました。

作詞募集期間 2017（平成29）年11月1日～2018（平成30）年1月31日

作詞決定 2018（平成30）年4月18日

作曲募集期間 2018（平成30）年5月1日～2018（平成30）年7月31日

作曲決定 2018（平成30）年12月19日

（作曲の発表は2019（令和元）年6月1日、信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念式典にて）

信州大学歌

令和元年
岡部 剛機 作詞
松長 誠 作曲
小野 貴史 管弦楽編曲

一 天空に切り立つ アルプスの

光る白峰 希望に満ちて

理想も高く 今ここに

我等は示す 無限の叡智

ああ誇らしく 事由の空へ

信州大学 羽ばたいて

二 みどり育む 千曲川

清き生命の 流れは永遠に

あふれる想い 絶え間なく

我等は学び 世界に臨む

ああ豊かなる 心を磨き

信州大学 輝いて

三 深き歴史の 森を越え

時代を旅する 信濃の風よ

栄えある文化 受け継いで

我等は拓く 遙かな未来

ああ独創の 轍を刻み

信州大学 進み行け



キャンパスの植栽

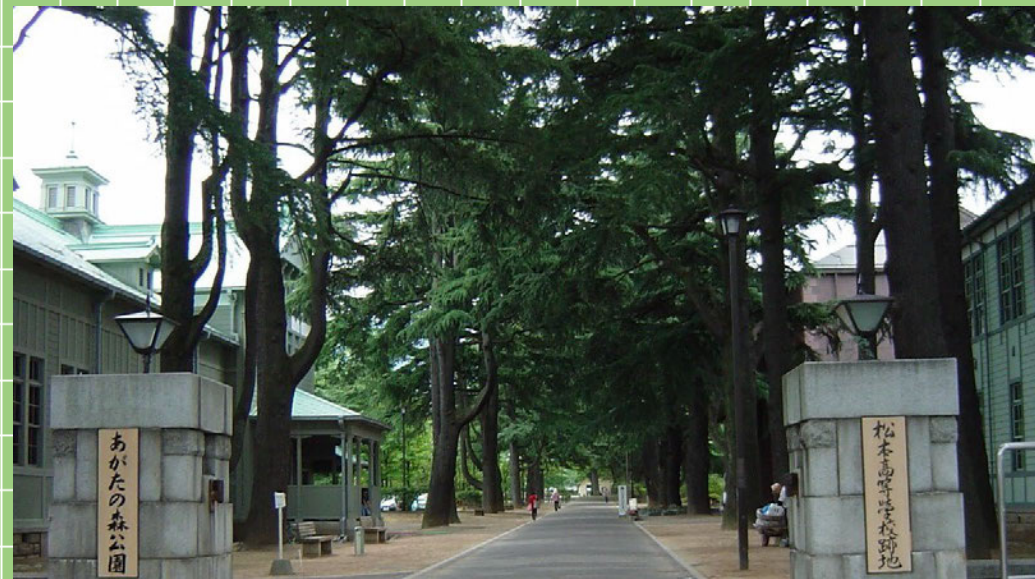
松本キャンパス



ケヤキ並木

松本医学専門学校初代校長の竹内松次郎は松本歩兵五十連隊跡地であった広大な構内の植樹計画を立て緑化を推進した。1946（昭和21）年に当時のメインストリートの両側にケヤキ苗を植えた。ケヤキ並木はキャンパスのシンボルとして今に受け継がれている。竹内の手記には、昭和24年4月までに、落葉松、枝垂柳なども植えたことが記されている。

旧県キャンパス（あがたの森）



ヒマラヤ杉

松本高等学校第2代校長大渡忠太郎により植樹されたヒマラヤ杉の並木が現存する。正門から続くメインストリートに60本ほどが残されている。

キャンパスの植栽

伊那キャンパス



ゆりの木並木

1954（昭和29）年と1957（昭和32）年に植えられたゆりの木は、正門から続く並木道となっている。森林に囲まれ農学部を代表する景観のひとつとして、地域の人々にも親しまれている。

上田キャンパス



果樹（柿）

上田蚕糸専門学校初代校長針塚長太郎が、全国から親元を離れて集まった学生たちが食べるものに困らぬようにと、果樹を植えたと伝わる。現在でも柿、胡桃、ザクロなどの木が見られる。

キャンパスの植栽

長野(教育) キャンパス



ヒマラヤ杉

かつて、キャンパス内には附属小・中学校もあり、桜、松、銀杏、ケヤキ、ポプラなど様々な木々が植えられた。現在でも、多くの木々が残り、大きく育っている。

長野(工学) キャンパス



南門のポプラの木

グラウンドや校地の周囲に境界木として植えられたポプラの木は今も数本が残る。現在は銀杏、桜、藤などの様々な木々が育ち、潤いをもたらしている。



信州大学大学史資料センターについて

大学史資料センターでは、信州大学の歴史を将来に伝えていくために本学に関する資料を収集しています。皆様がお持ちの資料をぜひご提供ください。

◎資料提供の手続きにつきましては、[大学史資料センターのウェブサイト](#)をご覧ください。

ご提供
いただいた
資料の一部



大学祭パンフレット



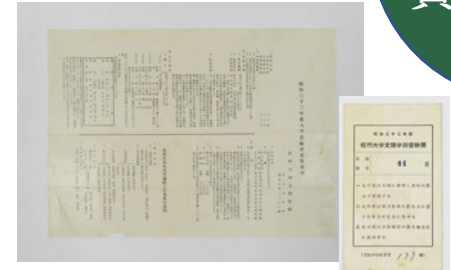
講義ノート



教科書



スナップ写真



募集要項・受験票



バックル・徽章



卒業証書



課題レポート



演劇ポスター



アルバム



学生新聞

2024年3月末時点で7000点を超える資料をご寄贈いただきました。
ご提供いただきました方々に厚く御礼を申し上げます。